

印西地区環境整備事業組合
次期中間処理施設整備事業地域振興策検討委員会 全文会議録

開催回数	第2回				
開催年月日	平成27年6月28日(日)				
開催時間	13:00~16:00				
開催場所	印西地区環境整備事業組合 3階大会議室				
参加者	学識経験委員	国立大学法人千葉大学名誉教授		委員長	福川 裕一
		株式会社ちば南房総 取締役		副委員長	加藤 文男
	公募による関係市町委員	印西市公募住民		委員	黒須 良次
		白井市公募住民		委員	渡邊 忠明
		栄町公募住民		委員	小野 明
	管理者が必要と認める委員	印西市吉田区		委員	大谷 芳末
		印西市吉田区		委員	齋藤 敏美
	事務局	印西地区環境整備事業組合		工場長	大須賀利明
		印西クリーンセンター	次期施設推進班	主査	浅倉 郁
			次期施設推進班	主査補	大野 喜弘
			次期施設推進班	主査補	川砂 智行
	関係市町	印西市環境経済部クリーン推進課		室長	豊田 光広
		白井市環境建設部環境課		主査 主事	金森 隆 佐藤 和範
		栄町環境課		課長	池田 誠
コンサルタント	株式会社 エックス都市研究所		主任担当者 担当者 担当者 担当者	中石 一弘 鈴木 修 秦 三和子 村上 友章	

- ※ 欠席：政所利子委員（学識経験委員）
- ※ 未選出：松崎区委員（管理者が必要と認める委員）
- ※ 傍聴人：1名

次 第	頁
1 開会	3
2 会議録について（第1回会議）	3
3 施設整備基本計画検討委員会第1回会議の報告について	4
4 意見書について	5
5 地域振興策の検討ポイントについて	6
6 地域振興策の検討スケジュールについて	15
7 地域振興策に関する吉田区ブレインストーミング結果について	18
8 その他	40
9 閉会	40

次第1 開会

○中野竜一（事務局）

定刻となりましたので、ただいまから印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業 地域振興策検討委員会の第2回会議を開会いたします。

まず、事務局から3点ご報告させていただきます。

1点目につきましては、政所副委員長から事前にご連絡をいただきまして、本日、所用のためご欠席とのことでした。

2点目につきましては、本日の出席委員でございますが、7名でございます。

よって、附属機関条例施行規則第2条第2項で規定する必要出席委員数である過半数の出席を満たしていることをご報告させていただきます。

3点目につきましては、周辺住民委員として選出をお願いしております「印西市松崎区」でございますが、現時点においても委員選出をいただいております。

ご報告は、以上でございます。

それでは、開会にあたりまして、委員長のごあいさつをお願いいたします。

○福川裕一（委員長）

こんにちは。今日は天気予報では雨とのことでしたが、予想を外れていいお天気となり、しかも湿度も少ない爽やかな陽気となりました。

午前中の現地調査では非常に美しい日本の里山を確認し、昼食場所は、すばらしい古民家造りの茶房で、おいしいご飯をいただきました。

午後の会議も頑張っていきたいと思っております。

今日は是非、現地調査した地域の課題や可能性などについて、自由に意見を交わす機会、時間をもちたいと思っておりますのでどうぞよろしく申し上げます。

○中野竜一（事務局）

ありがとうございました。

それでは、以後の会議進行を委員長にお願い致します。

○福川裕一（委員長）

議題に入る前に、今日は、第2回目の会議ですが会議録署名委員をお願い致します。

今回は渡邊委員と大谷委員をお願いしたいと思います。

○渡邊忠明（委員）・大谷芳末（委員）

はい。

次第2 会議録について（第1回会議）

○福川裕一（委員長）

それでは、次に、以下はこの次第に従って順番にいきますが、今の感じですと6番くらいまでが前半で、7番からは後半で、7番では是非活発な議論をと思っておりますが、もちろん1番から6番でもどんどんご意見を出してください。

次第の2番目にある「第1回会議の会議録について」事務局から説明をお願いします。

○川砂智行（事務局）

はい、ご説明いたします。

それでは資料外別添①をごらんください。

前回、第一回会議の全文会議録となります。

皆様には、メール等で事前提出しておりますが、委員長と会議録署名委員のご確認が終わり、ご署名をいただいた後、組合ホームページに掲載いたします。

次に、資料外別添②をごらんください。

こちらは、第1回会議の概要版会議録でございまして、同様に皆様にメール等で事前提出しております。

取り扱いといたしましては、全文会議録と合わせて組合ホームページに掲載いたします。

ご説明は、以上でございます。

○福川裕一（委員長）

はい、以上ですが特にご意見ご質問ありますか。

ないようですので次にいきます。

次第3 施設整備基本計画検討委員会第1回会議の報告について

○福川裕一（委員長）

次は3番目の「施設整備基本計画検討委員会第1回会議の報告について」です。

事務局から説明をお願いします。

○大野喜弘（事務局）

それでは次第3の施設整備基本計画検討委員会第1回会議のご説明を致します。

先月の5月24日施設整備基本計画、地域振興策、両検討委員会の合同によりまず委嘱式の後、地域振興策検討委員会と同時刻の開催となりました。施設整備検討委員会第1回会議の会議録につきましては、地域振興策検討委員会同様に、概要版の会議録を両検討委員の皆様にもメールをさせていただいております。

全文の会議録につきましても、会議録署名委員の署名をいただいた後に組合ホームページに掲載をさせていただく予定でございます。

次に簡単に第2回会議の主な内容につきまして、簡単ではございますがご説明をさせていただきます。

まず1点目と致しましては施設整備基本計画検討委員会のスケジュールといたしまして第10回会議までの調査・審議する内容を確認させていただきました。

続きまして次期中間処理施設の事業スケジュールについて、稼働開始までのスケジュールをお示しさせていただいたところでございます。

次に次期中間処理施設の基本方針といたしまして、整備に係る基本方針をお示しさせていただいたところでございます。

最後に次期中間処理施設の処理システム・処理方法といたしまして、各処理方法等の原理や処理フローなど詳細についてお示しをさせていただきまして、処理システムないしはその方法の方向性の絞り込みを行いまして、検討を進めるということになってございます。

報告につきましては以上でございます。

○福川裕一（委員長）

はい、どうもありがとうございました。

はい、これに関してご意見やご質問があれば。

ないようですので次に進みます。

次第4 意見書について

○福川裕一（委員長）

4番目の意見書についてです。

○川砂智行（事務局）

ご説明いたします。

資料外別添④をごらんください。

こちら平成25年度に用地検討委員会を設置した以降、これまでに提出のあった意見書のうち、添付している4通について、内容が地域振興策に触れておりますので、参考として皆様にご提出するものです。

また、渡邊委員から、意見書を1通ご提出いただきましたので、本日、追加配付させていただきます。

渡邊委員の意見書につきましては、主に地域振興策を検討するにあたっての基礎資料及び方針に関することとさせていただきます。

次に、意見書の取り扱いについてご説明いたします。

まず、これまでに提出のあった意見書と、本委員会の委員ではない方からの意見書につきましては、限られた会議時間であることを考慮し、個々に審議はしない考えでございますが、関係する議題の審議の際に、貴重な資料としてご活用いただければと存じます。

次に、本委員会の委員の皆様からの意見書につきましては、関係する議題の審議の際に、必要に応じて提出委員から内容説明をお願いできればと考えております。

また、この度、渡邊委員からご提出いただいた意見書でございますが、1番と致しまして、資料の事前提出を早めにとする趣旨のご意見でございます。

今回の資料提出につきまして、予定の1週間前よりも大幅に遅れましたこと誠に申し訳ありませんでした。

次回以降、1週間前までには皆様にご提出できるよう、最大限努力させていただきます。

ご説明は、以上でございます。

○福川裕一（委員長）

はい、どうもありがとうございました。

渡邊委員いいですか。

○渡邊忠明（委員）

すいません。他のボランティアの資料作りと重なってしまい十分検討する時間がなかったもので、宜しく申し上げます。

以上です。

○福川裕一（委員長）

他にいかがですか。

意見書についてよろしいでしょうか。

はい、次に行きます。

次第5 地域振興策の検討ポイントについて

○福川裕一（委員長）

5番目の「地域振興策の検討ポイントについて」を議題とします。

事務局から説明をお願いします。

○川砂智行（事務局）

それでは、プロジェクターを用いてスクリーンに資料を上映いたしますので、少々お待ちください。

はい、それではご説明いたします。

次第をめぐっていただきまして、会議資料の1ページをお開きください。

また、正面のスクリーンも合わせてごらんいただければと思います。

地域振興策の具体的な検討の前に、検討のポイントや地域の状況を事務局も含めた皆様でまずは共有化すべきと考え、本資料を作成いたしました。この後の議題である吉田区のブレインストーミングの結果でも触れている部分が多いこと及び午前中の現地調査でご説明した部分もあることから、簡単にご説明の方はしたいと思います。

最初に、次の2ページに掲げる「地域に求められる将来像」をご説明いたします。

次の3ページに概要を纏めておりますが、先週の日曜日に開催いたしました施設整備基本計画検討委員会の第2回会議において、施設整備の基本方針について審議がございました。

その基本方針の1つに、「恒久施設となり得る施設整備を図る」とあります。

つきましては、恒久的な清掃工場の操業と合わせて展開する地域振興策の検討においては、今後の社会情勢や地域情勢がどのように変化しようとも変わることのない、また、流行り廃りのない、誰もが持つ不変的な価値観を重視すべきと考えました。

その点を踏まえまして、具体的な将来像として正面赤書き4点を掲げさせていただきます。

1点目といたしましては、誇りを持てる地域振興策であるということでございます。

これは、言い換えますと、地域の皆様の孫子の世代、更にはその先の世代から、「我が地域の先人達は、将来を見越した素晴らしい選択と判断をしてくれた」と実感してもらえる事業を展開する必要があるということでございます。

2点目といたしましては、農業振興と景観維持が図られることでございます。

吉田地区周辺においては、印西地区の最も重要な地域資産の1つである都市に近接した豊かな里地里山が広がっております。

この地域資産としての価値は、今後増々高まっていくものと思われませんが、里地里山の景観と機能を維持するにあたりまして、農業の振興は欠かすことのできない大きなポイントとなります。

地域の先人達が農業という産業と地域の暮らしと共に築きあげた、ふるさととしての景観や機能をしっかりと守り、また、更に育んでいければと考えております。

3点目といたしましては、賑わいと雇用が創出されることでございます。

外から人が集まる地域となれば、必然的に雇用を含め様々な可能性や選択肢が生まれるものと考えております。

ただし、賑わいと雇用につきましては、その質も問われるものと考えております。

4点目といたしましては、安定的な収益スキームを構築することでございます。

この点につきましては、ただいまご説明いたしました1点目から3点目における取り組みの達成度合に応じた、地域振興策トータルパッケージの集大成になるものと考えて

おります。

只今ご説明いたしました地域に求められる将来像につきましては、そのほかにも様々な着目点や切り口があるかと思っておりますので、後程、皆様から幅広いご意見をいただければと存じます。

続きまして、4ページの地域の魅力や優位点をご説明いたします。

先ず5ページの静寂でございますが、左下に記載しているような音の風景に包まれた、いわゆる癒しスポットが周辺に点在しております。

6ページは、近隣に大規模住宅群を有していることでございます。

次の7ページでございますが、活発な地域コミュニティを有していることでございます。

8ページは、先程ご説明した大規模住宅群に近接した豊かな里地里山が広がっていることでございます。

里地里山につきましては、追加の参考資料として航空写真もごらんください。
航空写真を今映します。

(航空写真をスクリーンに投影)

緑で丸くプロットしてある位置が建設候補地の吉田地区になりまして、赤い点線が国道16号線を示しております。これは何を皆様にご認識いただきたいかといいますと、東京の都心部ですが、当然自然環境というものは基本的にはございません。

緑に見えているところは公園であったり、あとは河川敷であったり、ゴルフ場なんか郊外に行くであろうかと思っておりますが、なかなか豊かな自然と云うものはない状況です。

それではどの辺りまでいけば豊かな自然が現れるかと言いますと、赤の点線でお示しした、国道16号線を越えたあたりで、やっといわゆる里地里山という景観が現れてまいります。

こういったことで見ると、やはりこの建設候補地の吉田地区につきましては、都心からの豊かな自然環境の玄関口になるような位置なのかなと云う風に考えております。

資料の方に戻っていただけますでしょうか。

はい、次に9ページでございます。

9ページは、生態系の頂点に立つ猛禽類が生息していることでございます。

スクリーンの資料には、猛禽類の写真を貼り付けさせていただきました。

つづきまして10ページでございます、10ページは貴重な土水路が残されていることでございます。

つづきまして、11ページでございます。

印旛沼放水路、通称新川が近接し、また、関東有数の長距離サイクリングロードの一部が、この新川の土手に位置しています。

次の12ページは、建設候補地の周辺に広大且つ平坦な畑が広がっていることです。

13ページは、建設候補地が位置する台地からの眺望に優れることです。

続きまして、14ページの地域の課題をご説明いたします。

次の15ページに5点を列記いたしましたが、適切な地域振興策を展開することで、これらの課題が改善又は解消される可能性があることも、皆様の念頭に置いていただければと存じます。

最後に、16ページの周辺の既存施設をご説明いたします。

先ず17ページでございますが、泉カントリー倶楽部でございます。

このゴルフ場につきましては、吉田区の法人区民として共存共栄の関係にあると聞いております。

18ページは、総武カントリークラブでございます。

19ページは、松崎工業団地です。

用地は既に完売していると聞いておりまして、現在、約40社が進出しております。

20ページは、印西市が管理する地区公園の印旛西部公園です。

21ページは、私立幼稚園の西村学園です。

22ページは、私立中等教育学校の時任学園ですが、学園のホームページによると、平成20年度以降は、生徒の在席はないようです。

23ページは、社会福祉法人が運営する障がい者支援施設のいんば学舎です。

24ページは、サバイバルゲームフィールドです。

このゲームは、エアガンを用いる地上戦を模したアウトドアスポーツで、吉田地区周辺に3つの民間施設があります。

馴染の少ないゲームだとは思いますが、この3施設の年間利用者数は約3万人にも達します。

なお、印西市内には、この他にも確認できただけで11箇所、合計14箇所のサバイバルゲームフィールドがあり、サバイバルゲームの聖地として全国的に有名であると聞いております。

25ページは、吉野牧場です。

現地に行きますと、広大な牧草地が広がっており、爽快な景観を形成しております。

26ページは、この地域のロケーションを活かした飲食店などがございます。

27ページは、八千代市に位置する東京成徳大学でございます。

なお、範囲を4km程さらに広げますと、この大学のほか、秀明大学、東京電機大学、東京基督教大学も立地しておりまして、吉田地区は大学に囲まれているとも言えるロケーションでございます。

28ページは、八千代市に位置する少年自然の家です。

29ページは、国指定文化財の泉復寺薬師堂です。

30ページは、印西市が管理する印旛歴史民俗資料館です。

農業が機械化される前の農具など、貴重な各種資料が展示されています。

なお、この資料館の近くに、吉田区の地元公立小学校である印西市立宗像小学校と休園中の印西市立岩戸幼稚園が位置しております。

31ページは、国指定文化財の銅造不動明王立像です。

また、スクリーンの資料には、本像の写真を貼り付けさせていただきました。

この本像が国指定の文化財ということになります。

結縁寺と呼ばれるこの谷津田地区は、季節ごと、散策やアマチュア写真家が多く訪れております。

次に32ページは、周辺の道路整備計画です。

印西市を縦断する幹線的な市道と県道を繋ぐ松崎吉田線が開通した暁には、建設候補地周辺の交通利便性が大きく向上するものと考えられます。

33ページは、建設候補地直近の上水道既設管の位置です。

松崎工業団地が直近となりますが、印旛西部公園にも既設管がございます。

34ページは、建設候補地直近の下水道既設管の位置です。

こちらも松崎工業団地が直近となります。

35ページは、建設候補地の最寄駅である印西牧の原駅の位置となります。

36ページは、建設候補地直近の印西市営ふれあいバス停留所の位置でございます。

簡単ではございますが、地域振興策の検討ポイントのご説明は、以上でございます。

○福川裕一（委員長）

それでは、順番にご意見やご質問をお願いします。

まず最初に、地域に求められる将来像のお話がありましたが、これに関して、何かご意見とかご質問があればお願いいたします。

今後は、このことをずっと念頭におきながら増強したり補足したりして考えたいと思います。

とりあえず、この4点が上がってます。

これも議論し出せばいろいろ意見があると思いますが、また具体的にも念頭に置きながら確認していきたいと思います。

○渡邊忠明（委員）

すいません。

○福川裕一（委員長）

どうぞ。

○渡邊忠明（委員）

（1）ちょっと長くなるので悩んだんですけど、誇りとともに持続可能なというサステナブル、サステナビリティを入れていただければ、もっといいかなと思うのですが、ちょっと長くなるんで迷ってるところです。以上です。

○福川裕一（委員長）

これは適宜、是非入れましょう「持続可能性」をと。

○渡邊忠明（委員）

「誇り」と「持続可能性」

○福川裕一（委員長）

普遍的なこととはその辺のことを言ってるのですが、是非、ご要望ですから「誇りと持続可能性をもてる地域振興策である」と入れておきましょう。

他にいかがですか。

はい、じゃあ次に地域の魅力や有意点、いろいろとお話していただきましたが、9項目、何かご意見ご質問があれば。

○加藤文男（副委員長）

よろしいでしょうか。

○福川裕一（委員長）

はい、どうぞ。

○加藤文男（副委員長）

建設候補地とですね、それから水田の標高差はどのくらいあるのですか。

地図ではちょっと読めなくて。

○大谷芳末（委員）

およそ25mから30mくらいです。

○加藤文男（副委員長）

そうですか、はいわかりました。

○福川裕一（委員長）

他にいかがですか。

意外に建設候補地は千葉ニュータウンだけでなく、佐倉方面にも近いので驚きました。この地区だけではなく、この周辺のいろいろな農業が資源魅力だと思うのですが、それは里山と里地で代表されているのですか。

○川砂智行（事務局）

よろしいでしょうか。

○福川裕一（委員長）

はい、どうぞ。

○川砂智行（事務局）

はい、委員長のご説明の通りでございまして、里地里山の構成する一つの要素であるというふうに資料に纏めたのですが、特出しした方がよろしいということであればその

ような形で纏めなおすことも可能でございます。

○福川裕一（委員長）

はい、このへんもおいおい纏められればと思います。

しかし、土水路にこんなに高い評価があるとは。

他にいかがですか。

台地からの眺望はお話しましたか。これにつきましては、後半の課題といたしまし
う。

それでは、地域の課題ですね。

課題ということで15ページに5つのポイントがありますが、ご意見ご質問お願
いします。

これだけではないと思いますが、主な内容ということでどうでしょうか。

○渡邊忠明（委員）

いいですか。

○福川裕一（委員長）

はい、どうぞ。

○渡邊忠明（委員）

私、意見書でまさにこの点をもう少し浮かび上がらせて欲しいということで、お出
しました。

要するに農業振興策考えるにしたって、農業の担い手がどの程度いらっしゃるのかわ
かんないとやっぱり困りますから。

その辺を意見書の3や2の辺りで出させていただいております。

いずれにしても、資料3ページの2から4の裏付けとして、意見書の2と3になりま
すが、3で私、売り込み先どうのこうのって書いてありますけど、それはなんて言いま
すかね、厳密なマーケティングをやれとかそういう意見じゃなくて、粗あらでもいいか
ら2市1町見渡した時にどういう買い手がいて、あるいはお客さんとしてどの程度来
てもらえそうかっていうあたりもざっくりでもいいからつかんだ上で具体的な振興策を考
えるという順番じゃないのかなと思ってるのです。

できる範囲でけっこうですが、特にこの辺の316名の方173世帯の方どんな年齢
構成になっていて、どんな職業にどのくらいついていらっしゃって、農業にどのくらい
従事していらっしゃるのか。

ざっくりした傾向をつかんでいただけるとありがたいな思います。

○福川裕一（委員長）

はい。

○大谷芳末（委員）

質問と相談ですが、わたしも大まかには吉田の中の構成は知っておりますが、以前、
表現した通りですね、転入17年目でまだまだ近隣以外は知らないお家もいっぱいある
のでできれば、その辺の構成データとして必要であれば、あったほうがいいのかと思
いますが。

一部感想ですけれどエックスさんがプロポーザル型プレゼンテーションされていま
すが、実は私、傍聴させていただきまして、非常にあのエックスさんの事前調査内容詳
しく吉田の地域を調べているなと感じました。

傍聴ですので手元にデータありませんが、エックスさんのプロポーザルには印西市の
高齢化データに対して吉田区の高齢化はこれだけ進んでいるという数字を示し、説明さ
れたのを覚えています。もし、可能であれば渡邊委員の言われるような内容をエクス
さんがお調べできるならば、一つの検討資料として参考になればと思うのですが。

いかがでしょうか。

○福川裕一（委員長）

いい意見ですね。

○川砂智行（事務局）

はい、会議資料の15ページにその5点の地域の課題をかかげておりますが、できる限り、それぞれの課題に対して、裏付けのデータを印西市さんの協力なども含めていきながら、また、コンサルタントの知見も活用しながらできる限り整理をして次回の会議までに皆様の方にお示しをしたいと思います。

○福川裕一（委員長）

はい、どうぞ。

○渡邊忠明（委員）

特に川砂さんからあの地域は三つ葉が特産で生産技術が高いという説明を今日お聞きしたわけですけど、そういった情報は非常に地域活性化考えるのに大事なので、出し惜しみしないで出してくださいと思います。

○福川裕一（委員長）

こんなこと大事じゃないだろうと地元の方が思っていることが大事だったりしますのでよろしくをお願いします。

○渡邊忠明（委員）

何ヘクターとかの細かいところはけっこうですから。

ざっくりでけっこうですので。

○福川裕一（委員長）

今日の纏め方はとてもポイントをつかんでもらっていてとてもありがたいと思います。あんまり批評があると良くないですが、もうちょっと次回細かいことではなくて概要が把握できるようなポイントが分かるようなものをお願いします。

○渡邊忠明（委員）

例えば、低熱の熱利用考えるとけっこう設備園芸やっている風景も車の中から見えたりしてましたから、その辺はどの程度なのかなっていうのがわかればいいと思うんです。

○福川裕一（委員長）

お昼に昼食を食べた古民家ですが。

僕はあのカミングアウトしますと全国町並み保存連盟代表ということをやっております、印西市の文化財保護対策に異議をとることもあるのですが、お話聞いてたら、やはり吉田地区にも歴史的なお宅があるということで、そんなにすぐではなくてもいいんですが、おいおいわかればと思います。

それでは3番。

○加藤文男（副委員長）

すいません。

上下水道は吉田地区にはまだ来てないんですか。

○大谷芳末（委員）

ございません。

○加藤文男（副委員長）

そうしたら、周辺の既存施設という形の16番、17番に入っただけの公共施設の上下水道とかそういうこともこの項目の中にあげて、15ページの所にあげておいてもいいのかもしれないですね。

後ろで特出ししていますから、まだたくさん出てくるのでしょけれど。

○福川裕一（委員長）

これは、千葉県の問題ですから。

○加藤文男（副委員長）

そうですね。

○福川裕一（委員長）

はい、それでは、だいたいよろしいですか。

まず課題はあげたと思うのですが、具体的な事業など考えながら。

○川砂智行（事務局）

委員長よろしいですか。

○福川裕一（委員長）

はい。

○川砂智行（事務局）

今、加藤先生のほうからのご意見ですけれど、15ページのですね、5項目明記してある（3）のところをインフラの不足というような形にして、そのあとのカッコかきでその上下水道を含めたことを網羅するという纏め方にさせていただければと思います。

○福川裕一（委員長）

このスライドは、この会議のために作ったスライドなのですか。

それともあちらこちらいろいろ集めたスライドなのですか。

○川砂智行（事務局）

もちろんこの会議のために作成しておりますが、今後ですね、地域の皆様との意見交換会の資料を作るときにも使えるものになるのかな、ということも含んで作っております。

○福川裕一（委員長）

だとすると、高齢化のページを次の1ページにちょっと説明を入れた方が良くなるのではないですか。

はい、それでは、次の4番「周辺の既存施設」これに関してご意見ご質問ある方。

○渡邊忠明（委員）

はい。

○福川裕一（委員長）

はい、どうぞ。

○渡邊忠明（委員）

29ページの泉福寺ですか。

これ吉田地区にあるのですか。

ちょっと地図見ると違う地域にみえるのですが。

○川砂智行（事務局）

こちらにつきましては、吉田地区に隣接する岩戸地区という別の地区になります。

ただ国指定の文化財ということで、そういった意味合いでご紹介を。

○渡邊忠明（委員）

わかりました。

○福川裕一（委員長）

この周辺には国指定の文化財の建物は他にないですね

○川砂智行（事務局）

印西市内ですか。

○福川裕一（委員長）

印西市内あるいは、白井を入れてもいいのですが。

あんまりないですよ。

なかなか貴重な地域というか、綺麗な建物ですよ。

他にいかがでしょうか。

○黒須良次（委員）

すいませんいいですか。

○福川裕一（委員長）

はい、どうぞ。

○黒須良次（委員）

すいません。

3番の地域の課題の方に戻っていただきたいのですが、地域の資源として初めの方に農業振興と景観維持という将来像が語られていたと思うんですが、それに関連して緑豊かな里地里山、里山風景は非常に貴重なもので維持されている状態が、いま現在は高い水準にあるのではないかと思います。

ただ散見されるのは、リサイクル系や工場の資材系ですとか廃品や車両のヤード系といった、そういうバックヤード系の土地利用として、どうしてもこの地域が転換せざるおえないようなニーズもあると、そういったものが里山の風景の中にうまく、なんていうか景観的にですね、どうしてもやはりどっかに出てくるはず。また、規制ができにくい土地利用だと思うんですね。

そこらへんをうまく処理しないと周りがどんどん荒れていってしまうところがあると思いますので、そこら辺の景観里山、現在景観は素晴らしいんですが、ニーズがあるバックヤード系、大都市のバックヤード系、そういう土地利用というものは非常に乱雑なものであって、看板以上に乱雑なものがあるかもしれないですし、そういったものに荒らされてしまえば価値が衰えて魅力がどんどんそがれていくでしょう、そこら辺の景観対策的などころってというのが15ページの課題の一項目としてあげていていんじゃないかなと思ったしだいです。

○福川裕一（委員長）

そうですね。

今日見た範囲ではその印象が一番強いです。土地利用のコントロールですよね。それを6番目に入れるか直結する農業の担い手に含ませるか。

○川砂智行（事務局）

それでは、15ページの地域の課題のなかに項目として加えるということで。

○福川裕一（委員長）

竹林も含めてあるのですよね。

他にいかがでしょうか。

今言ったのは3の「地域の課題」に戻ったのですが、4の「周辺の既存施設」でお願いします。

さっきの5番目の学校はもう生徒さんがいないのですか。

○川砂智行（事務局）

時任学園でよろしいでしょうか。

○福川裕一（委員長）

はい。

○川砂智行（事務局）

時任学園のホームページで平成19年度に生徒さんが卒業されたという情報は掲載されておりましたので、そこまでは生徒さんいらっしゃったと思うんですが20年度以降はどうもいらっしゃらないみたいです。

ただ、生徒さんの募集は毎年行っております。

もちろん学校法人としての認可も継続しておりますので、学校であるんですけれども現状、生徒さんがいらっしゃらないような状況です。

○小野明（委員）

ひとついいですか。

さっきの地域に求める将来像ですが、持続可能性と関係してくると思うのですが、この一つにですね、経済効率性というのを考えるというのもひとつ必要じゃないかなと。

たとえば今後、いわゆる、振興策を考えるときに、予算上の制約だとかですね、あるいは、建物建てたあとの維持管理だとか、そういうことが、末子の世代に負担になっていけませんし、そういう意味では、もちろん成長戦略やっていますが、経済状況が続くわけじゃないと思いますし、地域創生ということを言われているのですが、どこかでやっぱり、経済効果性っていうんですかね、そういう意味でのことも考えないと子孫に大きな負担を残してしまう。

例えば、これから議論されていくことなんでしょうけど、建物造った、あるいはその後また拡張をするときのためのですね、意見書にもありましたが、改築やら、あるいは解体の工事、いろんなことが出てくると思います。

そういう意味ではどこかにですね、経済性っていうのを考慮してあげないと現実問題違うと思いますね。

そうでないと、せっかくの地域振興策机上の空論で終わってしまうと思いますんで、そこを入れた方がいいのではないかと。

○渡邊忠明（委員）

実は、サステナビリティというのは、ドイツ林業からきてまして、要するに森林の成長した分だけ切って原資には手をつけないようにしましょうということで、サステナビリティってのは経済も含んで子子孫孫までいい状態が続いていくとこういう概念ですんで小野委員のおっしゃってることはサステナビリティで十分包含されているのがだいたいのみなさんの認識かと思います。現在の。

○福川裕一（委員長）

そうかもしれないですが、あと4番の中に言い方が逆になっているものが、結果的には同じことを言ってるんでしょうね。

具体的な事業を考えていくと当然その視点が直されてきますので、一応現在の段階では、サステナビリティということで意味が含まれていると、それから4番辺りにもあとで、10年後の人が困るようなものをつくったら大変ですから。

○小野明（委員）

もっと言うんですね、施設管理者が変わってから変わったとたんにね、政策が変わって、いろんなことが青写真が、グレー写真に戻っても困るわけなんですね。

そういう意味ではしっかりした議論するわけなんですけれども、でも大事なものは、住民税を払ってる皆さんも納得しないと地域っていう概念がね、もちろん吉田地区さんは当然第一ですよ、それだけですと、いろんな状況変わってきてせっかく吉田地区さんが、ご協力いただいたことが、うまく生かせないってことが出てくると思うんですよ。

ですからそういうことも考えて、今言わなくてもいいのですが、そういうことも検討しつつ考えていかなくはいけないのかなと思います。

○福川裕一（委員長）

そういうことですね。

ちょっと吉田地区だけを見るようになってくるかもしれないですが、周りの共存っていうかお互いにこう助け合ってるという感じをもう少し見るといいのかもしれないね。

○小野明（委員）

松崎地区や印西市全体とか。

- 福川裕一（委員長）
印西市以外も、組合の地区全体もですね。
お願いするわけですから、共存みたいな関係が。
- 小野明（委員）
言葉は入れなくてもいいんです、そういう趣旨で。
- 福川裕一（委員長）
これは最後に出て上がったときに完成すると。
はい、前へ戻りますけれども、今やってるのは3番とか4番のこれに関してはどうですか。
ご質問ありますか。大丈夫ですか。
- 黒須良次（委員）
よろしいですか。
- 福川裕一（委員長）
はい。
- 黒須良次（委員）
既存施設になるかどうかかわからないですが、このあり方を考える上で地域に係る広域になるのかもしれないですが、計画ベースで、たとえば、印旛沼周辺の観光レクリエーション基本計画にこういうのがありますよ、県にはありますよ、ですとか県にはサイクリングコースの将来整備計画にこういうのがありますよとか、あるいはそのレクリエーションルートの計画がありますとか。
また、施設として県のこういう施設計画が将来像としてありますとか、あるいは印西市の農村地域の整備方式ないしは整備方針として具体的にこういうものがあがっていますとか、ここの地域の整備とか保全にかかわる関連する計画ですね、そういったものはひととおり資料として纏めていただければ。
- 川砂智行（事務局）
資料のなかに一部32ページで道路については将来の整備計画を載せておりますが、その他についてそこまでの情報は入れておりませんが、県や市の計画も含め、後は市の方はこれから、景観に関するルール作りを景観条例などでしていくようなことも聞いていますので、いろいろと基礎情報はそういった計画関係の基礎情報について再確認の上、また情報提供差し上げたいと思います。
- 福川裕一（委員長）
地域の魅力、まあ僕らよく地域の資源資源といいますが、もう少し資源をしっかりとらした方がいいのかもしれないですね。そうすると、さっきの特産物も三つ葉が出てきましたがその辺が必要かなと思ったりしました。
他にいかがでしょうか。
今、説明いただいたものはこれでひととおりご意見うかがいましたね。また戻るときは戻っていいと思いますけれども、次に進みます。

次第6 地域振興策の検討スケジュールについて

- 秦 三和子（コンサルタント）
エックス都市研究所の秦と申します。
こちらの検討スケジュールについてご説明をさせていただきたいと思います。
この表はですね、前回の検討会の時にA3の横でスケジュールが入ったものをごらんになっていらっしゃると思いますので、それを縦書きになったものということで、かつ

前回の検討会で決まった日付け等を加えて作成したものでございます。

ポイントとしては3点くらいあると思っております。

まず行事の中に1回2回とありまして、今回が第2回会議ということなんですけれども、この流れと致しましては、まず今回と前回、地域振興策の検討の共通認識をどんなふうに関後、地域検討策をつくっていくのかという共通認識を持ちましょうということ、そして次回以降、個別の地域振興策がどんなものがあるか、ということを検討していきましょうという事でございます。

そのうえで、ひとつひとつの地域振興策が良いか悪いかということだけでは実現の可能性ということにはなかなかないのではないかと思っておりますので、それをこの地域に落として「これとこれを組み合わせるとこのようになるね」というようなパッケージという検討をだいたい9月の後半くらいに議論できれば、それが、5回目6回目くらいになるかなということございまして、そこで議論を踏まえたものに関して意見交換会までに少し、一回目の意見交換会はここであるんですけども、どんなふうに関勧めていくかってことを周辺住民の方にお話しすると、そのうえでパッケージの話を考えたうえで答申案を作って第2回の意見交換会というような形になっていく流れでございます。

3月までに答申書を決定していくということになります。それが一つ目の流れでございます。

二つ目としまして前回は7月、記録にもありましたように、7月に先進地視察をしましょうということだったんですけどもこの流れを考えますと、まだどういう施設を見に行くかといったところを、もう少し認識共有して良さそうところ、何がいいのか、何を見に行くのか、決めてから先進地を決めた方がいいのではないかとということになりまして9月中に先進地視察を入れてはどうかというようなことで、このスケジュールがちょっと前回と変わっておりますというのが二つ目のポイントでございます。

三つ目としましては、並行して行われております施設整備基本計画ですが、施設的方式ですとか、規模ですとか、もらえる熱の量ですとか、そういった情報が分かってくるかと思っておりますのでそうしたことも適宜入れつつ、単なるアイデアだったものから、このくらいの規模のものだと有意義性があるねとか、これではぜんぜん足りないねとか、そういったことを入れていこうとになっておりまして、1月の所を書いてあるのが供給可能エネルギー量の最終確認というのがこの1月にありますけれども、この時には規模も決まってくるということになりますので組み合わせたときの最適な地域振興策での形というものを答申の中に入れて定めるのかなというところでございます。

地域振興策の検討スケジュールとしては、以上3つのポイントということで3月までに決定したいと考えております。

以上です。

○福川裕一（委員長）

はい、今スケジュールのお話を説明いただきました。これに関して何かご意見ありますか。

はい、どうぞ。

○渡邊忠明（委員）

私もコンサル業に6年身を置き反省してるのですが、どうしてもコンサル業ってのは、なんていうんですかね、全国的なレベルの情報は非常に豊富には富むんですけども、現地に即した情報ってなかなかつかみ辛い、地域活性化が成功している地域を見てみると、やっぱり地域の人たちで意見書の4に入っているように最近の若手の学識者が言うには、とんがった人、要するに独創力があって活動力があるってことなんですけど、そういった人たちを見つけて、アイデアを吸収していく、そういうところは地域活性化

が成功している地域なんで、是非このスケジュールにもある9月5日の周辺住民意見交換会、私やや遅い感じもしますけれど、9月5日に周辺住民のご意向ご要望の確認ということですが、非公式にもう地元の委員のかた二人もいらっしやることもあることから、できるだけ、吉田地区のとんがった人たちから貴重な情報を詰めていただきたいなと希望しております。

○福川裕一（委員長）

渡邊さんのご意見も、意見書の3番と4番ですね。

○大谷芳末（委員）

意見なのですが、9月5日の周辺住民への確認という、このタイムスケジュールだとパッケージできてない段階で、周辺住民に聞いてもおそらく、周辺住民の意見はこのあと発表のこの中かなり出てきてますんで、もう、絞り込むくらいの所まできてますんで、だからこのスケジュールを、ちょっと流動的に考えて、検討委員会である程度パッケージの触りを示して、みなさんにどう思うかっていうふうに聞いた方がいいような気がします。

○福川裕一（委員長）

そうすると、もうちょっと遅くした方がいいですか。

○大谷芳末（委員）

まあ、そういうことですかね。

○福川裕一（委員長）

この議論の経過によって左右される、ですから、一応ここに仮置きしておいて、また、状況見ながらでもいいでしょ。

○大谷芳末（委員）

委員会の方でまだ検討初期だけでもこれだけ考えてありますからどうですかと、まず示してその反応を見た方がいいと思います。

○福川裕一（委員長）

そうですね、まだこっちが吉田地区の住民の方に追いついてないという可能性もありますね。

その辺どうですか。もう少し柔軟にいったいいいのでしょうか。

○川砂智行（事務局）

はい、いくつかパターン考えられるとは思いますが、意見交換時会の開催日を遅らせるということもあるかも知れませんが、もしくはパッケージ化する作業をもっと早めに着手するということもあるでしょうし、いづれにしてもまだ具体的な審議に取り掛かっておりませんので、まずは7月26日の第3回会議でどのような会議進捗をみるのかをみてから、もう一度ご意見いただければと思います。

○福川裕一（委員長）

今日もまだ検討より、我々は状況の理解、共有化というところだと思いますので、次回きつとそういう話に入って。

○小野明（委員）

まとまった形でのパブリックコメント受ける形でしないと、いろんなこと噴出しちゃって余計いままでもまとまった話がまたこんがらがってしまうこともありますね。

ご意見まったく賛成でございます。

○福川裕一（委員長）

この後は後半で、いろいろお話伺います。その時はまた議論しましょう。

ここにいらっしやるお二人はずいぶんと尖がっているのでしょうか。まだほかにも尖がっている人いらっしやるかもしれません。

それではスケジュールに関してはだいたいいいのでしょうか。

さて、それですね、あと、後半に入りますと、資料は配付してありますが、地域振興策について吉田地区のブレインストーミングということで大谷委員のお話を聞くのですけど、どうしましょう。

少し休憩をはさみますか。それでは5分間休憩をはさみます。

その間に準備をお願いします。皆さんがもし早めにお集まりになったらそれから始めます。

次第7 地域振興策に関する吉田区のブレインストーミング結果

○大谷芳末（委員）

吉田区の大谷でございます。よろしく申し上げます。

前回の第1回会議で、昨年応募のとき、吉田のブレインストーミングをやっているのので、その辺の内容を知りたいというお話でしたので、今回私の宿題になっていますので、それをお話ししたいと思います。

加えまして、吉田のことをなるべく皆さんにご理解いただくために、吉田の紹介や、吉田ってどういうところか、ご理解いただきながら、それといろいろ用地決定を受けましてから具体化に向けてちょっといろいろ考えたこともございますので、まだ吉田だけの意見ですけれども、方向性とか、そういう点にもちょっと触れてみたいと思いますので、よろしく申し上げます。座らせていただきます。

最初に、私口下手でして、平易な言葉でいろいろしゃべりますもので、あと皆さんになるべくわかりやすいように口語体でいきますので、あと問題発言もあるかもしれないので、希望としてはオフレコにしてもらいたいようなところはちょっと触れますので、それは事務局の判断に任せますけれども、なるべくわかりやすく説明したいと思います。

ブレインストーミングの内容はどうだったかというのはこれから発表します。

このブレインストーミングは、昨年6月21日に開かれました。吉田区の構造改善センターというところでやって、参加者は町内会に相当する役員、それから各地区の評議員、一般住民の人、合計8名でブレインストーミングとしてはちょうどいい人数かなということをやりました。

何でこんなことをやるんですかというのは、去年は用地を応募している状態で、この当時は用地検討委員会が応募4地区を査定にぐるぐる6月から回り始めた時期になります。

吉田の区会としては、地権者が応募したその土地が候補地として決定された場合は、町内会としてどうするかという結論をこの6月の頭に行ったという背景があります。

組合のほうにはちょっとお願いしていたのが通りまして、吉田は用地検討委員会の査定会議ですかね、地元住民がどう思っているか、そういうのを査定しに来る会議で、一番最後にしてくださいというようにお願いしてまして、7月5日というスケジュールが設定されました。

その中で、私たちはかねてから組合がおととしから一般に公開している、どういう着目点で評価するのだよということをおお体熟知してましたので、どうせやるならば200満点中、地元の理解度、そういうものに対しては40ポイント配点されているし、この地域振興という案に関しても30ポイントが配点されて、非常に大きなウエートを占めていて、組合の意気込みが審査基準としていかに地元と協調しようかというのがわかっていましたので、やるならばこの30ポイントをとりに行きましょうということをやったわけです。

馬の耳に念仏で恐縮ですが、農村地域は会社勤めと違って、ブレインストーミングと

言っても何のことだということになると思いますので、一応皆さんには自由なアイデアを出していただいて、判断、結論は行わず、奇抜なアイデアを出してほしいと、もう質より量だと。

一切批判なしの、生で出たデータをこの後皆さんにお話しします。

資料は6分の1とありますので、表が6枚ぐらい出てきます。

1表目ですけれども、見方は、ブレインストーミングに参加していただいた人から出た意見で、大体ここにあるのは派生された過去のデータです。

若干整理するために、用地検討委員会はどういう着目点でそれを審査しに来るかということ、ミーティングかどうか整理してあります。

このときは、4地区がコンペ状態でしたので、このアイデアは他地区にはないアイデアだぞ、というふうな観点でもやりました。

管理負担というのは、もしそれが実現しても、吉田区が本当に管理できるのと、これは不適正だねみたいな見方をしてください。

大分類、10分類は、かなりアバウトな形で分けてあります。

これは、去年発表したホームページに載っているデータと全く同じです。

ところどころでご説明しますが、今日、午前中景観を見ていただいたとおりです。

自然、虫とか、水族館とか、よくある話ですがドッグランやましよう、この辺はよくある話ですけれども、こんな意見が出ていまして、特にこの中でちょっとご説明を加えたいのは、サイクル駐輪場、パラグライダーの2点ですけれども、サイクル駐輪場ロードサービスというのは、吉田区は土日になるともう毎週こういう光景が見られます、雨じゃない限りは。

どうしてかなということ、これは千葉県でサイクリング愛好家が一番訪れるサイトのサイクリングマップですけれども、吉田はちょうどこの位置に相当するわけです。

どうもそのサイトをよく見てみると、やはり年配の方も若い方もいらっしゃると思いますが、コースとして人気があるのは、こちらの豊かな自然のあるところなのです。

先ほど川砂さんからのラインは、16号この辺通っていますから、ほとんどの人はこっちは通らない。

もっと見てみると、ここに米本に道の駅があり、ここに車をほうり投げて、ここからずっと行くという人が大半なのです。

ここにそういうユーザーの人たちの施設があれば、米本からほとんど引っ張ってこれるだろうという発想です。

パラグライダーってこういうものですかね。

昨日も飛んでいたのですけれども、正確にはモーターグライダー、あの辺飛んでいるのは背中に扇風機しよった、そういうタイプのパラグライダー、そのパラグライダーというのは、ちょっと小さな公園みたいな原っぱがあれば飛び立てるタイプで、格別大型の投資がなくても整備ができる。

場合によっては、パラグライダーのレンタルみたいなのをやれば若者には受けるかもしれない。

特異点は、候補地がここですけれども、飛んでいるのはこの印旛沼、ずっとこっちが大きな沼へ来て開けますけれども、ここはもう全く航空障害のない広大な土地なのです。

それと景観がいいということもあって、このような人たちが通るのだろうと想像されますので、そういうふうなことを一応アイデアとして出す。

ブレインストーミング、2ページ目に行きますけれども、一応、健康増進施設というくくりでまとめましたけれども、皆さんのアイデアから出たのは、これも含めて皆様のアイデアですが、ごらんのとおり温水プール、スポーツジム、岩盤浴、これは他候補地とコンペしていましたが、誰でも考えつきそうなことですね。

もっと特徴を出そうということで話し合ったのが、サンセットスパと名づけました。
今日、見学いただいたのは、最初バスを降りたこの候補地の入り口で、泉カントリーのところからずっと入って、畑の真ん中でバスを降りたのです。

このあたりに建設候補地があって、ぐるりと一回りしていただきました。

ここで示す地域を横から見ると、標高が25メートル程度で、これは私の家はもう地図からいうとこの辺にあるのですが、私の家から見る夕焼けです。

運がいい日には富士山やスカイツリーも見えます。

これは他の地区にはないだろうと、吉田だからできることだろうということで、デザインのようによっては、こういうお風呂ができます。

こうすれば、もう皆さんの憩いの場になるはずですねと勝手な思いを抱いております。

印西市もお風呂は結構たくさんありますね。

Mというお湯とか、牧の原にもありますし、私は最近ユーカリ行っているのですが、Mというところも非常に私過去15回ぐらい行っていて、とても気に入っていたところですが、ある日高層マンションが建って、天井全部かぶってしまったのです。

皆さんはこういうところにお金出してお風呂行くということは、どういうときに行くのでしょうか。

やっぱりリラックスしたいから行くのではないのでしょうか。

牧の原の前のあそこも2回ほど行きましたけれども、全部閉鎖されているというのは、どうも私個人的意見ですけれども、余りリラックスしないのではないのかなと、こういうところだったら皆さん来ると思いませんかという発案です。

3ページ目に移ります。

これに関しては関連のくくりですけれども、いろいろ排熱を利用しましょうというような考え方ですね。

排熱の扱い、これは用地検討委員会が来られたときも、住民の意見というのは活発に出されましたけれども、なかなかこれは電気事業法か何かで難しそうな案ですよ。

これは売電しか今道はないだろうと思えますけれども、アイデアとしては余熱の権利を吉田区にとか、せっかく建物造るのだったら、太陽光を張りめぐらして、吉田に何とか電気をくれないとか、吉田なんかに温水を配布できないとか、地域振興策、まだ何ができるともわかりませんが、そういうものの住民誘導とか、こういう意見が皆さんから出るわけです。

この辺も大体誰しも考えそうなことですが、プラスいいところだけちょっと触れておきたいのですけれども、吉田区はトランスヒートコンテナ事業を行ったらどうだというのは、現在は、現地はこのクリーンセンターから導管で近隣のオフィスに熱供給をしているという方法ですね。

これは、導管によるオンライン方式で、熱供給が熱源の近いところにまで送る、中低温は余り向かない、当然インフラつきますから、コストはかかる。

では、こうしたらどうだというのが案で、トランスヒートコンテナというのを使いまして、20キロ近くまでオフライン方式で中低温を活用できるという案です。

ここで出た施設のほうで、発電にどれだけ使って、どのぐらいの、さらには排熱が出るのかわかりませんが、かなり集中してやれば、余熱はかなり低温なものが出てくると想定されます。

その場合は、捨てるのではなくて、なるべく活用しましょうという案ですね。

こうすれば、病院だろうが、市庁舎だろうが、いろんなところに持っていきますし、実用化されていますね。

住民から出たプロパンガスみたいに、家庭に委託ができるこれはいいなと、これは、技術的にも経済的にも合いませんので、こういう方法だったら実現性があると。

それから、ブレインストーミング、4の結果ですけれども、ブレインストーミングメンバーから出たのは、これは発電ですけれども、ざっくり言って公共施設、農業振興と言えここが出ていますけれども、シルバーセンターとか、そういうのはどこにでもあ
るけれども、調整池、これはたいしたことないですね。

コミュニティーセンター、こういうものも普通の発想。

農業振興、こういうことができればいいねと、高付加価値農業への転換ですが、これ
もどんな人も大概言いそうなことで、給食センターとリハビリセンターについてだけち
よっつとご説明します。

印西市は、現在、高花から始まって6カ所の給食センターがあります。それぞれ建築
年月を示します。

それで、調理能力を示しますと、これは、今現在の経過年数も書き込んでいます。

昨年高花が老朽化したので、この用地、代替用地をURから、高いお金を払って印西
市は用地を確保したというのがあります。

でも、クリーンセンターがおよそ10年後にできるとしたら、老朽化予備軍というの
はいっぱいあるわけです。

これは、教育委員会の発表している抜粋ですが、新たな学校給食センターの用地選定
条件というのはできるだけ長方形、正方形、ここを見ると台形であるとか、三角である
とか、そういう用地がいっぱいあるのです。

どうしても動線を最短コストでやることから、矩形の用地がほしいと。

当然エネルギーをたくさん使うと、給食センターがもしクリーンセンターの隣という
と、イメージの問題があるかもしれませんが、はるかにコストダウンメリットで、子供
たちのコストを下げてる、あるいはそこで働く人たちの待遇改善をすることかいうこと
に使えるわけですよ。排熱を利用すればどうでしょうかという話ですね。

環境としては、車両の出入りが激しいし、臭い、騒音が出るから、周りに住宅はいっ
ぱいないほうがいいねと教育センターが言っていますので、うってつけではないですか
という案です。

ただし、これは10年先のことを行政が決定できるのかどうかは私たちのあずかるこ
ろではないので、これは案として、実現性あるのかどうかわかりません。

リハビリ型のリゾートと書きましたけれども、よくある温浴施設、お風呂、プール、
温水プール、どこでもつくりそうなことですが、もうちょっとこうしたらどうで
すかと。

水中ウォーキング、高齢者向けにいつまでも自分の足で長生きしたいと。

フロントは豪華にして、リゾートさながらにして、芝生や自家農園や散策路、グラウ
ンドゴルフ、俳句などのサークルやっている、料理やパソコンなどの趣味の教室をやっ
ている。

体操教室でやったり、もちろんその中にもリハビリの医療も入れれば最高ですね。

要するにこの狙いは、今もう高齢化社会ですから、この人たちが長生き、自立できる
ような施設をつくって、リゾート型にして、何度でも来たいと思わせるような施設にし
たらどうでしょうというのが一つのアイデアです。

それから、5枚目に入ります。

この辺は大分類で産業と防災に分けましたけれども、産業としては皆さんからアイデ
アがあったのは、野菜工場は普通にありそうですね。

この辺なんかも普通に話が出そうですけれども、これは特に追加説明はないですね。

特別いいアイデアだと思いますが委員の人でも、もしこういうのがあったらいいと思
いませんか。

絶対そこで自分の車洗車すると思いますでしょう。

見たことないですよ、排水がクリーンセンターの隣だったら、40度ぐらいの水をつくった洗車機を町なかの洗車料金と同じようにやったら、絶対ここに来るからというアイデアですね。

それから、防災についても、一般的に皆さん思いつくことは書いてあります。

施設のほうでも、大方針の中にやっぱり防災拠点にしようよというようなこともこの前話し合いされていましたので、いずれ具体化するのかなというように思っています。

この中で、ウナギ養殖場、この辺についてもちょっと説明したいのですが、坂東太郎という会社があって、これは、今現在一方的な片思いですので、やると決まったわけでも何でもないわけであり、別に坂東太郎にアプローチしたわけでも何でもないですので、一般論で申し上げます。

非常においしい養殖ウナギを開発した会社が銚子市にあります。

全国の評判で、利根川水系の養殖ウナギというのは最も天然ウナギに近いと言われてます。

それで、国内で流通しているのは0.3%しか天然ウナギはいない。

天然ではなくて、天然に近い養殖なのですが、それにしても国産がいいのではないのでしょうか。

養殖場というのは大概、必ず上屋をかけて、それで池で、池の下には45度から80度の温水が流れている。

要するに稚魚から飼育するまでにそれなりのノウハウがあると思うのですが、かなりのエネルギーを使う業種です。

最近いろいろ見てみると、この坂東太郎というブランドウナギを100%使った飲食店が増えていますね。美味しそうですね。

それから、これはいろんなパッケージを売っているのですが、先ほど言った道の駅を絡めたアイデアなのですから、クリーンセンターが大体この位置で来ますね。

さっき行ったサンセットスパがこの辺にできたらいいね、リゾート型の温浴施設ができたらいいいね、この辺に道の駅ができたらいいいね、この道の駅をフロントにというのが発想なのです。

下につくった場合は、エスカレーターなんかで、上のほうに施設をつくる。こうすれば、このサンセットスパリゾート温泉に来る人は、みんな道の駅を通っているわけです。

したがって、道の駅が繁盛する。

当然、無料サイクル自転車置き場なんていうのをつくってやれば、サイクルは一台車の屋根に積んで、持ってくる必要ないわけですね。ここに置けるわけです。

例えばロードサービスでタイヤの修理とか、そんなのをやれば、もちろんユーザーに受ける。

さっき言ったパラグライダー、これは原っぱがあればできるスポーツなので、そういうものもこの辺につくるというふうなことをすると、まず温浴施設と道の駅のセットというのは近隣には一個もありません。

若者がレジャーした後に一汗流す、こんないいことないですね。ついでに買い物もしていきますよと。

千葉県には、これだけの全26カ所の道の駅があります。

吉田はこの位置に相当します。ごらんとおり、道の駅というのはどこの市町村も地域振興を目的としてみんなつくっていらっしゃるわけですから、大半がやっぱり周辺部に存在して、ここは空白地帯ですね。

地域振興の必要がない地域なのかもしれないです。

吉田は地域振興が必要だということなのですが、一番近いのが3番で八千代ですけども、私、八千代に過去1度だけ行ったことがありますけれども、ホームページ見ると

明確に書いてあって、八千代市が農業振興のためにつくりましたということの目的でつくられて、中には農産物販売所しかないです。

あそこ何度も訪れようと、私個人的意見ですけれども、あんまり。

○福川裕一（委員長）

サイクリングロードって通っているのですか、既に。

○大谷芳末（委員）

サイクリングロードですか。

地図で説明すると、今日バスで走ったようなところは、あの大きい通りはほとんど走っています。というふうな発想です。

ブレーンストーミングのもう最後のページになりますけれども、この辺についてはスポーツ関係、青少年育成という観点から見ると、こういうふうなアイデアも出ています。

あとは何とか人口維持政策も図りたい気持ちもあるので、大網に季美の森というすばらしい住宅街があります。

ご存じない方のために若干説明しますが、自分の庭からゴルフ場が見えるというつくり方をした広大な住宅地です。ここは、大半がパイロットカスチューデス、そういう人たちが住むまちになっていて、そこから成田、羽田に通勤するという市街地があんな遠いところへできていますが、すばらしいまちで、たまたま泉カントリーがあるので、そういうことをすればできますねというのが一つの発想です。

あとは、一般的に出てくる、吉田の住民の中にもやっぱり上水道欲しいなど、道を何とか広くしてほしいなど、バスが欲しいなどという意見がある。

ここまでがホームページに載っています去年話があった内容です。

ここから今回向けにちょっといろいろ調べごとをした部分を、事務局の許可を得て話をさせていただきたいと思います。

印西市は、ご苦労された先輩2事例があるのですよ、どういうところですかと言いますと、大廻と平岡、それで今回吉田というのが続くわけなのですけれども、どういうことかという、最終処分場が大廻につくられ、斎場・霊園が平岡につくられたという例があります。

どちらも大反対が4、5年も続いてすったもんだやっできたところですよ。

その事業が開始されたのが平成6年。失われた20年の前の話ですから、当時はやっぱり非常によかったのだと想像されます。

ここで選択というのは、地元の方々がどういう還元策を選んだかというのは、大廻は簡単に言うとインフラです。

平岡地区の人々に選ばれているのは、平岡自然公園というのをつくりました。

若干のインフラ、それと、彼らの大きな成果は、平岡自然公園の業務委託という仕事をとりました。という例があるわけです。

ここで決定的に違うかなと思うのが、大廻も平岡もどちらも地元還元事業という名目でやっていますけれども、吉田は地域振興、皆さんのご意見を聞いて、どうやって吉田が振興するのか、もしくは吉田を含めた印西市が振興するのだという観点で取り組んでいるというのは大きな質の違いで、ある人に聞いたのですが、こちらの大廻や平岡は地域振興していますかねと聞いたら、地元対策でやったので、言われたからやったのだというふうなお返事をいただいて、取り組み方がおそらく決定的に吉田の場合は違うのだろうというふうに思われます。

同じく先住は、大廻に25世帯、平岡地区は300世帯、吉田は130世帯、こういうふうになります。

大廻や平岡の総事業費は、それぞれ73億、110億。だから地元が選んだ還元事業というのは大体このぐらいのレベルなのです。ウェートにするとこのぐらいになります

よと。

さて、では吉田はどうなるのでしょうかというのは、まだまだ全然わかりませんので、これからのことになるのですけれども、最終的には何らかの形で収束させないといけないので、もちろん調べた結果は皆さんの参考としてお示ししました。

大廻というのは、ごらんのとおり上下水道を整備しますと、道路の拡幅、新しい道を1本追加してつくりました。

拡幅農道、それから道路脇ののり、神社の修理、拝殿の建てかえ、それから上下水道については通常自宅内引き込みは自宅持ちですが、この分をみんな還元策としてやっただ。明らかにインフラを大廻地区は選んだわけです。

それに比べて平岡地区、全景ですけれども、大体20ヘクタールの土地のうち印西斎場と霊園が当時求められる主の目的だったのを、大体11と2ですから13、3割5分ぐらいを地域振興策として体育館、研修室、多目的広場、炊事場、グラウンド、林間散策路をつくりましたということで、全体20ヘクタールの開発をしたわけです。

加えて、地元の人たちがこの霊園の管理受付業務を受託し、公園内の公園の全ての樹木管理を受託します。

また、印西斎場の中の建物清掃やこの中にある売店をやりました。

自然の家では、体育館、研修室、グラウンドやキャンプ場などの受付業務を受託しました。

それから、キャンプ場の夜間警備を受託して今日に至っているという選択をされました。

この事業スキームは、平岡自然公園管理企業株式会社、これも10年前に設立して、このときに平岡3つの地区がありますが、この住民が250名出資してこの会社を設立しました。

このときは、これは小遣い程度の収支、1件当たりになりますけれども、この人たちは一応この企業の規約として、年間配当1割しますという形にして、初年度から翌年配当を初年度分として続けて今日に至っています。

それから、ここで働く人たちは、この地区の出資者の家族ということにして、46名の人が働いていると。ちょっと一部外注を使いますけれども、大体年商7,000万、昨年度は46名という形でやられています。

いろんな考え方がありますが、これは印西市のホームページから持ってきたデータですが、合併した以降のデータしか整理されていけませんので、4年間ぐらいですか、大廻どうになりましたか、平岡どうになりましたか、吉田はどうですかというのがこのデータです。どうなのでしょう。

若干吉田ってどんなところというのを説明したいと思いますけれども、年間多彩な事業を当たり前のように継承しています。

どんなことかといいますと、春にはやっぱりこういう防疫活動から始まるわけです。

その前に神社に集まって、今年の豊作祈願をやるわけですが、吉田は年4回も祭りをを行い、秋の大祭にはおみこしが出ます。

雨が降った後は、今日ここを皆さん歩いてもらった谷間のところですが、あそこの道路がどぼどぼになりますので、掃除し夏には伐採をやります。

これは高所作業車、これ県道ですが県道を片側通行、コーンで仕切って、消防団の見張りを上と下に立て、場合によっては真ん中に立て、住民総出でこういう伐採事業、県の指導の伐採作業をやります。

このおみこしが実は十数年前に、毎年やっていたおみこしを3年に1度に吉田は変えました。だから、要は担ぎ手がないわけです。

ちょうどいい話で、この写真は平賀学園のお祭りに私は招かれて行って、交流をして

います。平賀学園の人は、本物のおみこしを担いでみたいという意欲があったので、うまくマッチングして、平賀学園と吉田の友好関係がここも3回ぐらい続いて、ただ人が少なくなった分をこういう形で今補っています。

吉田には自慢の消防団があります。

十数年前、印西地区には48分団の消防団がありますが、そこで優勝して県大会まで行ったという実績があります。昨年の操法大会で準優勝を得まして、優勝と準優勝は、2つだけが郡市大会、そこに参加できるわけなのですが、きょうお気づきになられたか、西部地区公園できょうその郡市大会が開かれていて、消防車がちらっと見えたと思いますが、それが午前中に終わりました、先ほどメールで優勝したという。これだけ130世帯のたかだかちっぽけな村ですが、実力のある消防団、これは吉田の自慢ですね。

ただ、悩みは、もう15年も20年も抜けられないと。後がまがないから抜けられないという悩みを抱えています。

当然防犯に対しても、いろいろな保全関係やったり、防犯関係のことを施策したりと、こういうことを自分たちでやります。

これは何をやっているかという、ある廃屋をみんなでこの際、片してしまおうと。みんな自分たちで解体したという例です。

こういうのは、本来ならば市道も県道も、汚れるのはこの周囲の地主さんから出た葉っぱとか土砂があるのですよね。これだって誰かの持ち物だと。

だけれども、吉田の人たちは、そういう正論を言ったって解決しないことは知っていますから、みんなでやりましょうと。一斉にやりましょうというやり方を載せています。

これは、子ども会、クリスマス会などの映画の上映会やっているところで、こういうことにも助成をしている。何と吉田の、さっき年4回も祭りをやると言いましたが、元旦の零時から清掃して、神社で新しい年を祝うという行事がまだ残っていて、零時から開始します。

だから、私が勤め人時代は、年末年始ですから、国内旅行か海外旅行かと、一般的には皆さんそう考えますが、吉田の人たちは元旦の零時から今年の新年を祝って、また平穏を祝うということを営々と続けている。もう一見、宗像神社のほかに浅間様という神社もあります。こちらのおみこしも展示するだけですがやっています。

これは何の写真かという、弓を引いているのですが、1月、2月、御備射という行事が吉田の中にあります。何のことかというので、僕も全然知らなかったのですが、その年の神様が、僕も詳しくないのですが、降臨する人がAさんのお宅と決まっています。そのAさんの右隣、左隣4軒ずつ、合計9軒が1月のある日に集まって、古い神事なのですが、弓を引いて、的を射て、それでことしの豊作を祈願するという行事で、そういう集まりを毎年1月、2月やっていると。何と驚くことに、その神様が降臨するAさんのお宅は、1年たつと隣のうちに移る。Bさんに移るのです。吉田130軒もありますから、一回りするには何年かかりますかね。でも言いたいことは、こうやって古くからの伝統を守り、また最近起こっている問題をお互い情報交換し、隣近所密接なコミュニケーションやっているし、古い伝統はここで語り継がれているという村なのです。

これは、こちらにも関係あると思いますが、印西市のクリーン推進課が推進しているごみ減量分別化の講習会を去年やった例で、一応熱心に住民も参加するという例です。

それから、吉田はバス、公共交通一つもありませんので、これは自前でバスを走らせている写真です。週1便しか走らせませんが、吉田周囲内の全部の高齢者を拾って、ジョイフル本田のほうまで行きまして、大体1時間向こうで買い物をやって、それから皆さんお送りするというをやっています。

これは、ついこの間のクリーン印西、5月のごみゼロ運動の状況です。

わざわざここで写真載せましたのは、突然市長がお見えになりまして記念写真を撮ったのですが、そのとき役所の方にお礼に行ったのです。わざわざお見えいただいてありがとうございますとお礼言ったのですが、課長さんから言われたことは、何で吉田ってあんな若者、子供が多いのですかと。そのとき、えっと言ったのです。不思議だと思いませんか。それ吉田の伝統なのです。子ども会も参加するし、老人会も参加するし、消防団も参加するしというのが、私がやったわけではない。過去営々とやっているわけです。だから、印西市のごみゼロというのは、ほとんど高齢者の方ばかりなのですかという、そういう実態かどうかはちょっとわかりませんが、ご挨拶に行った経験でそういうことがわかりました。

さきほどは写真で示しましたが、これは昨年度、吉田区の行事を写真ではなくて文字にした例です。

表の見方は、昨年度の何月何日、どういう目的で、どういう関係者が何を話し合いましたかということ、昨年度の区の行事実績で年度末に発表した資料です。中身は一々やる必要はないのですが、ここで言いたいことは、主要な関係者がこれだけコミュニケーションをとっていますよと。

例年ならば大体1ページで終わるのですが、去年はクリーンセンター問題があったので、ずらずらと2ページ目も出てしまったと。

だから、写真を文字にするとこのような説明になるわけですが、まとめますと、とても自治意識の高い、自助、共助が当たり前の世界で、伝統も継承しているところですよ。したがって、意思疎通が進むのですね。決めたことは高いです、これは。

ちょっと番外編ですが、吉田区には信号機が1個もありません。上下水道もありません。公共交通もありません。計画すら上がったこともありません。それでも皆さんがこういうことを活動している、そういう場所だと。

これを若手の吉田の委員の齋藤さんに言うと、これは、私が吉田に転入した、外から来た者だからとてもこういうことを感じるのですが、齋藤さんに言うと、それは当たり前だよという、そういう感覚になるそうです。

でも、吉田にはそれなりの悩みがあって、昨年、私が区長職で初めて宗像小学校の入学式に招かれますと、宗像小学校の 신입学生がこの4人、1年生8名です。今年は新区長が入学式行ったら6名に減りました。

これは、実はここ私の家なのですが、安物のドローンで空撮したやつです。

私が17年前転入したときは、ここは青々とした田んぼで、蛍がいました。

17年経って今この状況で、安物のドローンなので高度が稼げないで、実はこの面積がこの20倍ぐらいあります。

吉田の中の道路は、例えばこんな状況が随所にあります。これは、なるべく役場のほうに働きかけて、改修をやってはいますが、なかなか予算の関係で全部直るものではありませんので、まだこういう、今日バスで真ん中を通りましたあの道ですが、当然年間には、足をくじいた、自転車で転んだ、シニアカーが走れば転ぶということがこの現実です。

あと、足が全くなく、この自前のバスは、毎週木曜日1便だけで、主に買い物難民、それと車に乗れない人、そういうのを目的にやっています。やっぱり週1便では不足であって、さらに加えてもう4年間続けていますが、万年赤字です。

かなり安くやってもらっているのですが、現状の利用者では毎年赤字で、吉田区のほうからこの赤字分を補填している。

そこまで申し上げますが、吉田の先ほど申し上げました年間事業費は350万ぐらいの規模で10年ぐらいやっています。

当然自分たちの金で1,000円分やっているというのが実際だと。これは、参考まで

に私の意見ですが、これも学びになります。もうじき人口半減時代を迎えますよと。当然この過去の歴史を見れば一目瞭然で、経済力とともに人口が伸びて、密接な相関関係があることはもうわかっています、その結果過去GDP世界第2位まで上り詰めたけれども、だんだん後退してきたという経緯があるわけです。

もう一つご説明したいのは、NHKとか読売、朝日も報じていますけれども、300万円の壁って一体何だということがあって、ちょっと紹介したいと思います。これの表の見方は、男性の20代、30代、それぞれを分けていますけれども、年収別に既婚者はどうでしょうかと。300万円未満の既婚者は9.3%しかいません。恋人がいる人は26%しかいません。恋人がない人は38%います。交際経験すらない人が33%、これは雇用形態別の内閣府の調査です。これはどう見るかというと、やはり男性30代、非正規雇用の働きかけで既婚者は9.6%しかいません。恋人がいますよというのは23%、恋人なしが43%、それからつき合った経験さえないというのが36%もいると。ちょっとこれ見ると悲しいデータなのですが、現実だと認めざるを得ないです。

ちょっと考えている振興策なのですが、できるだけ振興事業、これは自立を目指したほうがいだろうと考えています。皆さんのご意見まとめて、どういう方向に行くかというのがありますが、できれば決めたもののイニシャルコストが公金から出るかもしれませんが、それ以降、毎年ランニングコストというのが発生するわけです。それはなるべく自前で稼いで、自前で雇用で払えるというふうなことを目指したほうがいいのではというふうに考えています。

世間並みの年収を得られる適正人数は雇用創出、もっとわかりやすい言葉で言うと、例えば年収450万円を50人つくるという明確な目標を上げたならば、それができる雇用策って一体何なのと、そういう方向に行かなければいけない。もう一つ重要なのは、次世代、現世代の配慮をベストミックスしたほうがいいですよ。

例えばサンセットスパのフリーパス、区費減額、公共バスや道路整備、これはやはり皆さんのブレイクストームングの中にも出てきているわけで、現世代の人たちはあと二、三十年しか生きられないわけですが、その人たちも、クリーンセンターここに持ってきてよかったねということを実感してもらえらる即効性のあるような対策もある程度ミックスしていかないといけないでしょうね。

中には、ある役員の方とかなり論争したことがあるのですが、なかなかクリーンセンター誘致に賛否をはっきりしなかったのですが、最終的に役員全員賛成で同意書というところまでつながったわけですが、わかったのはその人のご家庭はもう60代ですから、お子さんがいらっしやなくて、20年もしたらおうちが絶えるというような環境のお宅なのです。中には独身ですっといらっしやる家族もあるし、だけれども満遍なくできれば私たちの希望としては、今生きている人たちもセンター来てもらってよかったねというのを実感してもらいたいというのが私たちの願いだと。

ここに名実ともにちゃんと雇用があれば、世代交代が円滑に進んで、人口維持、右肩上がり、そういうふうになると一番いいのだらうなというふうに考えます。その結果、市民の財産である田園風景、里山維持、朝どり食材がスーパーに並びます。

もしこういうふうなコミュニティがずっと残ると、きっと心豊かで、名実ともに日本一住みたいまち印西市になるだらうなと考えています。何でかという、この春の選挙で、候補者は政党、会派無関係に皆さん口々に訴えていたのは、印西市って日本一住みよいまちですと言われるけれども、皆さん実感ありますか。そうではないですねと誰しもがそういうふうにおっしゃっている。何か足りないものがあるねと。恐らくこの吉田区の中に、私の意見としては解を見つけることができると思います。

あともう一つ言いたいことは、こういう位置関係ありますよね。

白井市と印西市と柴町のちょうど真ん中をずっと電車が通っているわけですが、これ

はまた考え方の差がいろいろあるかと思いますが、これだけ東京と成田空港の中間点で、絶好の休養ポイントありません。

考え方としては、これは市のレベルでちょっと私意見言っていますが、ベッドタウンからベンチャーへの未来志向を持ったほうがいいのではないですかということを行っています。

ここはかなり開発されましたけれども、高島平やその他で、八王子の方のニュータウンというのはどういうふうに変化になっているかというのは皆さん学習して知っていますよね。ここも四、五十年はやがてそうなる可能性があるのを防ぐには、この方法しかないでしょう。幸いに非常に住みよいまちだという評判も高いし、災害に非常に強い地域になっています。

そういうことで、外からの流入、ベンチャーをやれば逆に観光でもいいです、あるいはその他の製造業でもいいですが、逆に人々を流入させるようにしたらどうですかと。

成田からトランジットさせたらどうですかという志向を持ったほうがよくて、当然南部に巨大消費地、佐倉、八千代からも、千葉市に続きますね、習志野と。

だから、当然、ここ利根川で仕切られているのですが、こういう志向を持てば、ここでみずから産業、消費を起こして、攻めようと思えばこっちしかないわけですよ。

その攻める場合、吉田区はこの位置でしょう。ちょうど最前線になりますよと。だから、言葉変えれば、ゲスト、いろいろなお客さんを迎える玄関口になると、こういう位置関係。

先ほど申し上げた吉田のインフラというのは、もう何もない状態に近いわけです。

例えば北総線の値下げ問題なんかよく騒がれていますが、発想を変えて、東京へ行こうとするのではなくて、東京から人を呼び込むように考えたらどうですか。

だから、ベンチャーを志向したらどうですか。成田空港から客をおろす。そうすれば、経済論理で運賃は下がるに決まっていますよね。だから、そうすれば、いがみ合って、人と会社の値段までどうのこうのと言う必要ないでしょう。

もっと楽しい方向で考えたほうがより有効ですよというのが私たちの考えです。

吉田から見ると、吉田には運賃問題、電車あるのだからいいではないか、うちは何もないよという状態です。

というふうなコメントを添えまして、いろんなことを言いましたけれども、どういう絵があるのだろうということを考えながら、これから進めていただきたいというのが私のほうからのお願いです。

以上です。

○福川裕一（委員長）

どうもありがとうございました。

まだ時間大丈夫ですか。

○川砂智行（事務局）

会議時間は、一応委員さんの募集要項の中では3時間程度としておりますが、それは最大限の場合であって、通常はできれば2時間程度で終われば。

○福川裕一（委員長）

まだ55分あるのが分かりました。

すみません。

もうすっかり聞きほれてしまって、特につけ加えることあるのかなとも思いますが、とてもすばらしかったです。

はい、どうぞ、議論してください。

○渡邊忠明（委員）

表現面をざっと流し読みしたものですから、私が意見書3で書いてあることはお考えになっていらっしゃるということを、しっかりと受け取らせていただきました。

むしろ加藤副委員長のほうがお詳しいのでしょうけれども、私、箱物を余り地域活性化で成功したというのは知識ないのですけれども、道の駅で本当に評判のいいところというのは、地元の人たちに自由にスペースを使ってもらって、直接農産品、果樹、野菜何だかんだ、それはもちろんですけれども、加工した漬け物などをおばちゃんたちが持ち込む。さらには果物で、ビール風のアルコール飲料を売るといような、地元産品の特産品をいろいろ自由に売らせるところというのは大概評判がいいわけですね。

そういった意味で、私、箱物はいかんとは思っているのですけれども、要するに小さな特化型の施設が集積して、結果的に多くの人利用できる環境の実現というのは、そういうふうには地元の人たちにオープンな道の駅というのは、これは実現しているのです、そこら辺ちょっと補足させていただきますし、意見書3は私がざっと流し読みしたために、余計なことを書いてしまいました。

○大谷芳末（委員）

いえ、とんでもないです。

資料だけでは読み取れないのは、ちょっと言葉で説明してもらおうとご理解いただけたいと思いますので、その点ではこちらをお詫びしたいと思うのですけれども、例えば一般の人、市民の人からいうと、なぜパラグライダーだと、なぜサイクリングというのと、ぴんときないと思います。吉田でそんなこと言っているのかと思うのです。これには切実な、若者をひきつけたい、新しい出会いをふやしたい、家族ができればいいなど。そういう思いがこもっているということ。

○福川裕一（委員長）

パラグライダーと、そのグラウンド、今何かパネルが敷いてはないですか。

あれは飛び越えることになるのでしょうか。

どうぞ。意見を交換して。ご質問とか何か。

○加藤文男（副委員長）

質問が2つあるのですけれども、防災拠点というお話がこのメモの中に残っていて、吉田地区は災害がないというお話をさっき後段で聞いたのですが、この吉田地区というか、吉田地区周辺というのは特異的な災害というのは何かあるのですか。

特異的というのはどういう意味かという、私のほうでは、海岸線の近くですから、地震が揺れれば津波が来る可能性があるわけなのですが、水害とかそういう、全然素人で申しわけありません。印旛沼があふれてくるとか、そういうことってあるのですか。

○大谷芳末（委員）

特筆すべき災害は、恐らくこの先もかなりないだろうと思っていますが、100年レベルの話をする、実は今日見学してもらった新川というのは海拔2メートルしかありません。2メートルで、東京湾で、自然流下で流れるはずもなく、花見川に巨大な揚水場があります。その能力は毎秒100トンぐらいの能力があって、印旛沼流域、栄町からもうそうですが、ざっと大雨が降った場合、あそこでどンドン掻き出すのです。

ところが、今年の台風で、おとしの台風でこういうことが起きました。吉田を含めて、佐倉、栄町のほうでは、私見ていないのでわからないのですが、田んぼが全部水浸しになったことがあった。これは何で起きたのか。ポンプが壊れたからだと思ったのですが、ゆくゆく事態を調べてみると、花見川揚水場のポンプをぶんぶん回したら、当然勾配がないものですから、八千代から千葉にかけて、かなりの部分が床下浸水があったという事例があって、それは印旛沼の水をぶんぶん揚げるものだから、当然あの地域で自然流下で下水が流れて、もう八千代市長からどなり込みがあって、ポンプ止めろとい

うことで、止めた経緯で、吉田からずっと佐倉、おそらく栄のほうですが、沼の周りの低地の田んぼは全部水浸しになったと。大谷がとっぴもないことと言って、ある委員さんに、第二花見川用水路の先鞭をつけろと、生きていうちにつけろと。これから人口減少化社会だから、のいてもらうには絶好のチャンスだということを申し上げたことがあるのですが、要するに河口の流れる断面積を大きくしない限りはこの問題は解決されない。だけれども、100年に1度ぐらいですかね。

○加藤文男（副委員長）

遊水池化してしまう可能性が100年に1遍あるかもしれないねということですか。

○大谷芳末（委員）

ええ。クリーンセンターのところはもう大丈夫だと思います。

○加藤文男（副委員長）

それから、もう一点なのですけれども、吉田地区は水道が引かれていないということなのですが、地下水は結構いい水が出るのですか、豊富に。

○大谷芳末（委員）

いい水かどうかというのは、データレベルの話ではちょっとわかりませんが、私個人的には結構水は悪くないなと思っています。

○齋藤敏美（委員）

個人的にちょっと、私が使っている、我々住民との共同井戸を何軒かに設けているのですけれども、数年前ですけれども、2回水質調査やっていたことがあったのです。そのときには、その調査があった方の会社の方がものすごくきれいな井戸なので、大事に使ってくださいねということは意見としていただきました。

○福川裕一（委員長）

水量は豊富にあるのですか。

○齋藤敏美（委員）

水量は豊富です。

○福川裕一（委員長）

お風呂をやった場合は、水はあそこからとるのですか。

○齋藤敏美（委員）

そうです。

○加藤文男（副委員長）

わかりました。ありがとうございました。

○小野明（委員）

1つお聞きしたいのですけれども、サイクリングロードの件ですけれども、あれは例えば土日がすごく多くて、平日が少ないとか、季節によって下がるというのはないですか。サイクリングロードのあの道で、若者がサイクリングロード走って、それは利用するのですね。

○大谷芳末（委員）

季節を通じて、土日は相当数走っています。

最近気づいているのは、平日も走り始めました。今日も実はバスを乗るところに、松崎側に自転車が1台走っているのに気がつきませんでしたか。

○福川裕一（委員長）

結構あれでしょう。これとって、若者以外はやりますよね、自転車はね。

外国人はどうか、まじっているのではないかな、この資料の写真も外国の方ですかね。

○大谷芳末（委員）

中にはいるのかと思いますけれどもね。

○福川裕一（委員長）

今の日本人少ないものですから、きっとこれがうまくいくと、相当来るのではないかと今一瞬思いました。

どうぞ、少し意見交換をして。そちらの方も何か発言を。

はい。

○大谷芳末（委員）

お歴々の方、いろんな業種の違いとか、いろんな環境の違いを持っていらっしゃると思うので、私の希望としては、まずは抽出の段階ですね。できるだけいいアイデアをさらに出していただければというのがお願いです。

○福川裕一（委員長）

何かどうですか。次回までの宿題ですか。

○渡邊忠明（委員）

あまり言うとは事務局に叱られるかもしれないのですが、要するに次期中間処理施設の中には、環境学習のスペースもできるのだろうと想像していますし、この地域はNPOだとか、そういう組織されていない人も含めて、長谷川先生、ケビン・ショートさん初め、とにかく環境学習、自然学習やりたい人がいっぱいいるので、でき上がった中間処理施設を私は自分の趣味で環境学習を挙げていますけれども、目的外使用にならない範囲ででき上がる中間処理施設を活用する方法も何か考えたらどうかと、この委員会に臨むに当たって常々それを思っていたので、私自身も考えますけれども。

○福川裕一（委員長）

なぜ目的外使用になるのですか。

○渡邊忠明（委員）

やっぱり地方公共団体の施設ですから、用途がかなり厳しく制約されると思うのですが、少なくとも環境学習は許容されるだろうと。

○福川裕一（委員長）

地域振興の施設ですから、環境学習で地域振興はもう。

○大谷芳末（委員）

環境学習も防災機能も公的な要素が多いと思うのですが、大震災のときにある内陸の道の駅の話聞いたことがあります。そこは最初から道の駅をつくる市町村の関係者が、防災機能を持たせようということで、道の駅をそういうふうにつくった結果、あの震災時に全国のボランティアがそこを拠点にして寝泊まりして、そこを物流基地にして、それで沿岸部の被災地にみんな応援に駆けつけたという立派な実績があるので、ここは防災拠点とか環境学習というものを考えるのであれば、私は考えてもいいと思うのです。

印西市民が安全に避難できる場所、印西市民の子どもたちが学習できる場所というふうな発想で全然問題がないと私は思うのです。

○加藤文男（副委員長）

環境学習としては全く問題ないのですが、ほかにいろんなアイデア出してくると抵触するかなということで、環境学習はノープロブレムだと思います。

○福川裕一（委員長）

そんな制約ないですよ。

○川砂智行（事務局）

渡邊委員おっしゃっているのは、きっとその純然たる清掃工場の管理機能建物の中に、別のものをその中でやるとか、そういった意味の目的外使用の場合には手続が必要になる場合があるだろうと。もしくは使えないとかということをおっしゃっていると思います。純然たる地域振興事業として、新たに展開する別の施設については、そういったおそれはないということでもあります。

○福川裕一（委員長）

あるわけがないですね。とにかくそうだと思います。どうか、だから余り制約されずに、いろんなアイデア出しましょう。

○加藤文男（副委員長）

今、大谷委員がおっしゃったことは、6月20日付の読売新聞で、6月3日に開催された道の駅フォーラムです。

○大谷芳末（委員）

発表されてございます。

○加藤文男（副委員長）

されていますね。

○福川裕一（委員長）

細かいところですが、また気がついたことを2つだけ私がしゃべってもいいですか。

まず、すばらしくできておりますが、56ページに、特徴で若者レジャーの後、人集めをする。若者を呼び込みたいというお気持ちは切々と伝わってきたのはよくわかるのですが、一方で寿命をどう延ばすか。寿命を延ばすというのは、健康でいかに寿命を全うするかというのが今最大のテーマだと思うのです。

そういう意味では、少し写真にもおばあちゃんが水中ウォークしているのがあったけれども、そういう長寿を、寿命を延ばして、その間を元気にするための温浴施設というか、健康施設というか、今社会的なテーマだと思うので、若者だけではないと思いますよね。

特にやっぱり今はいいけれども、印西市の内容は。一斉に高齢化するのか。そういう方々のための、若者向けのスポーツ施設ばかりではなくて、そういう方々が元気に寿命を伸ばして楽しく過ごせるというのが一つテーマになる。

○大谷芳末（委員）

これから求められることかなと思います。

○福川裕一（委員長）

ちょっとここが若者に少し寄ってしまっているのではないのでしょうか。

2つはあって、1つ目的があったのと、今一応この清掃工場の周りの施設の話に後で限定して話を進めているけれども、やはり吉田地区を含めて、周辺がとてもすばらしいと思うので、それを環境学習の一つのフィールドミュージアムとしてそこを考えて、その中核施設というようなことがいいのではないかなというふうには思いますね。

○小野明（委員）

ひとつよろしいですか。

その整備学なのですからけれども、大変すばらしい内容でございまして、いろんなアイデアが詰まっていて、考え方も含めてですね。

これ一つ、次世代と現世代の配慮のベストミックスとありました。

このベストミックス、ものすごく大事だと思うのです。先ほど申しましたとおり、今回の地域振興がどのような社会情勢が変わっていても、青写真として10年後生きてくるということを印西市の市民の方も納得していただく必要があるというふうに思いますので、そういう意味では、さっきおっしゃいましたね。

それなりのものとして、もう10年先だと思っている人も、今すぐ何か見えてほしいという話は。

そういう意味では、吉田地区に直接係るメリットと、それから振興策と、それから印西市というのでしょうか、市全体、印西市も含めて、近隣も含めてですけれども、全体がメリットを享受するという、こういう2つのベストミックスがやっぱり必要ではないかなと思っております。

それで考えたときに、同時に国の施策は地方創生と、それからいわゆる国土強靱化ということで、要するに防災ということですので、その地方創生と防災にかかわることであれば、印西市の、あるいはその周辺の方々も恐らく納得するでしょうし、もちろん吉田地区の皆さん含めてでございます。

ですから、吉田地区に特化した部分と、それを含めて印西市全体に係る部分が両方ある振興策が一番理想といった、まさにベストミックスの世代間だけではなくて、そう考えたときに、一つは地域創生という観点からいくと、この地域創生と、それから国土強靱化、国あるいは県からのいろんな予算や何かを使えるような知恵を絞れると思いますけれども、そういう中で位置づけていくということで、印西市の全体のマスタープランの中に位置づけられるようなことも含めて、吉田地区の振興策が入ってくれば一番いいのかなと思って、そういう意味では1つはまさにスポーツですよね。

今オリンピックを控えてというか、国もスポーツ振興というのがテーマになっていて、単に選手を育てるだけではなくて、スポーツを通じて健康だとか、それから心身共に安全、健康を維持していこうということで、健全なそういう人間形成をやってこうということで、そういう意味では先ほどの道の駅と、それから私も実は皇居マラソンをやっている、あのときいつもお風呂に入って、仕事終わった後、あそこで、有名なお風呂屋さんがあって、お風呂で着がえて、1周回ってきて、またあそこでお風呂に入って、ビールを飲んで帰るといふ。またビール飲んでしまうからダメなのですけども。

ですから、そういう意味で、今委員長の話ありましたけれども、例えば道の駅にサイクリングロードの人たちが、自転車をとまるところ、それからお風呂も入って、お風呂を浴びてまた帰ってもらえばいいわけですから、そしてそこで飲食もできる、それからさっきのお年寄りもいらっしゃるわけで、こういった温浴施設をつくって、まさにリハビリという、その機能を一手にそこでやる。

クアハウス的という言い方はおかしいのですけれども、要するにそこに来れば、若者もお年寄りもそれぞれに健康というものに対して、あるいは癒しというものに対して、そういう提供できるというのが、そういうことでせっかく幾つかのアイデアがばらばらに出ていますが、もしこれがちゃんともしできれば、インフラとして一つにまとめると、いい施設、複合施設ができるのかなと。

それから国の予算、あるいは県の予算も使える余地があるのかなというのが一つ。

それから、今後またいろんな議論されて、次回以降議論されているのでしようけれども、防災という観点から考えると、ここで発生する余熱だとか、あるいは狭い話が、例えば発電だとか、そういうことを使って防災のほうに役立てていただけるといふでしょうし、それからもう一つは地域創生がもう一個大事なものは、やはり産業振興だと思いますので、農業含めてですけども、ここで起きたエネルギーなり電気なりを、やっぱりもちろん地元の農家の農業振興にも役立ててもいいし、それから印西市に工業団地、松崎工業団地とか、あるいは印西市庁、どのぐらいの発電あるかわかりませんが、エネルギーを、くしくもちょうど電力の自由化というのがこれから始まっていくわけなので、そういうことで、例えば電気でも、あるいは余熱のエネルギーでも、蓄熱エネルギーでもいいのですけれども、何かそういうものを供給することで、より一層申請した企業にとってもプラスになる。

あるいはもうちょっといろんな企業を呼べるかもしれないということで、雇用創出にもなるわけですけども、先ほど道の駅の複合施設も雇用創出につながると思うのですけれども、そういうふうな形で、印西市と、それから吉田地区と直接、要するに目の前の、目先というか、一番身近な、吉田地区の方々、これプラス印西市全体にもやっているよというようなあれなのではないでしょうか。

そういうようなことを整理でこの順番を、あともちろん予算のこともありますから、

うっかり国やら千葉県の予算を引っ張ってこれるかということを含めて、考えていくのが一つこれから選択していくと思うのですけれども、その事業を、一つの基準になるのかなと。

それからもう一つは、インフラになりますけれども、ソフトという部分もあると思うのです。

まさにここにいいことが書いてあって、さっきベストミックスで、アイデアとしてサンセットスパのフリーパスとか、区費の減額とか、公共バスの道路整備とかありますけれども、インフラももちろん大事なのですけれども、もう一つソフトの部分、例えばちょうど今プレミアム商品券やっていますけれども、地元にお金を落とすという意味で、例えば買い物券だとか、あるいはお年寄りが介護のタクシーを使うときに何かパスを出してあげるとか、あるいは普通のバスを乗るときの割引券ですけれども、なんかそういう、つまり建物だけを考えていくと、さっきの維持管理費がかかってしまうのですけれども、今言ったそういうソフトの部分で支援できるようなものを、それこそ電車賃が少し補填してあげれば安くなるので、吉田地区とその周辺で、印西市はわかりませんが、印西市は全部無理でしょうけれども、例えば吉田地区とか、その周辺のところをバスが来ても、含めて、そういうもので、何かソフトの部分で、お金を出すわけではないのですけれども、何か助成できるような、そういうものを出すというのも一つ新しい地域振興策になるのかというふうに思っていました。

すみません、長くなってしまって。以上ちょっと2点。

○福川裕一（委員長）

ほかにいかがですか。

○黒須良次（委員）

ありがとうございます。

先ほどの吉田区さんのところの構想というのですか、それは非常に、やはり地域に住んでおられて、いわゆる地域の人たちしか考えつかないようところって、ずっと感じさせていただきました。

全部資料今改めて見直しますと、例えば私気になったことが1点ございまして、それは最初のページ、組合さんのほうでつくっていただいたページだと思うのですけれども、12ページに建設候補地周辺の広大な台地ということで、建設候補地を含め、一団の畑地面積が18ヘクタールですから、非常に広い。これは、建設候補地を含んでの話なのですよね。

○川砂智行（事務局）

はい。

○黒須良次（委員）

もう一点、先ほど吉田区さんのほうからご提案があって、ブレインストーミングの結果として出てきているのが、56ページですか、こちらのほうで56ページと、私は12ページを見比べながら、この区域の大きさというのですか、かなり大きい広大な区域を計画対象というか、検討対象になるのだなというふうにちょっと感じさせてもらっているのですが、この吉田区さんの構想でいくと、この畑地、12ページの畑以外にその下、今度整備する道路、この道路が、また次のほかのページで32ページの今度整備される松崎吉田線印西地区ですか、これに隣接する、台地ではなくて、台地のちょっと下の段丘に当たる部分ですか、平地か段丘に当たるまた部分にこの56ページの市道に隣接する形で道の駅的な機能と、それから自転車置き場ですか、そういった自転車置き場とか、そういったスペースを構想されているふうに捉えるのですけれども、そうするとその上のほうの見晴らしのいい、展望のいいところにそういうスパ的な要素ということで、その道の駅とスパと、あるいは温浴的な施設ですとか、健康づくり施設的なところ

が一体的に整備されるというような形になっている、これが拠点とかいうようなお考えだと思いのです。

そうすると、12ページの18ヘクタールよりさらに面積が拡大をして検討対象になるということですが、この資料のところがございまして、今度この資料のところ、面積的な絵面で行くと、3から5ヘクタールぐらいは、道の駅周辺というのですか、なりそうな感じがするのですけれども、そうするとかなり、その間にまた自然の豊かな、オオタカが営巣しているのではないかとというようなちょうどこの白地のところ、赤いところと道の駅の間ですか、候補地の間のところには緑豊かな谷戸があって、この谷戸の保全も含めて、この範囲が何か周辺の一体的に考えて、適切な土地利用というのですか、計画的に何かやっつけていかなければいけないのだなというような、そんな感じがしてきました。

そうしますと、やはり今提案がある区域以外についても、この建設候補地周辺、まだ畑があって、ここもまだ検討の余地ありというふうに捉えさせていただいてよろしいのですか。

○大谷芳末（委員）

お答えします。

去年のうちにこれをつくったのは、全く絵に描いた餅です。何をやるかは皆さんで考えてください。だから、方法論であって、台地の下に何をつくる、エスカレーターつくるなんて勝手に書いていますが、幾らかかるのかこっちはもう考えていないわけです。そういうのはエックスさんのお力をかりて、全部台地の上につくったほうがいいのではないかと、そういうのはこれからやることです。

○黒須良次（委員）

何かこの道を見たとき、かなり計画に整合性がありそうな感じが非常にしましたのですけれども。

○大谷芳末（委員）

いや、思いつきで、まだ応募の段階で、候補地が決まるかどうかはわからないのに、今みんなこんなこと考えているなというのが実感です。

○福川裕一（委員長）

よく考えましたね。

はい、どうぞ。

○川砂智行（事務局）

では、事務局からちょっと簡単にご説明を。

地域振興策を実際に展開する場所については、何ら現状において、何ら条件ですとか制約とか、そういったものを掲げているわけではありません。

あくまで皆さんの自由な意見出しの中で、ここでこういったものを、こういう組み合わせでやったらいい効果が生まれるのではないのかなとか、いろんな話に発展するかと思いますので、余り条件にとらわれずに、自由な発想でご意見を出していただければと思います。

ただ、そこから先の話ちょっと簡単に触れますが、だからといってご意見いただいた振興策の全てをもちろんできない可能性も当然あります。

それは、土地の制約ですとか、もしくは地権者さんのご意向もあるかもしれません。

あとは公共事業側としての予算の都合もあるかもしれません。ただ、そういったものは後年度の、地元の皆様との対話の中で決めていくようなことだと思いますので、まずは条件などを余り考えずに、自由にご検討のほうを進めていただければと思います。

○小野明（委員）

そうは言っても、ある程度、2億なのか、200億なのか、20億なのか、何か何も

ないと。

○福川裕一（委員長）

何かさっきクエスチョンマークいっぱいついていましたけれども。

○小野明（委員）

何かないですか。

○川砂智行（事務局）

結論から申し上げますと、そういった予算としての枠の考え方は、全く今のところありません。

○加藤文男（副委員長）

ちょっと吉田区さんのほうに伺いたいのですけれども、何かこれ加工したらいいなという農産物ってあるのですか。というのが、これずっと見ていますと、やはり農産物を販売するのかなというか、それから場合によっては自分のところの産物で食べさせるのかなとか、できれば加工か何かやって、商品開発やりたいのかな、なんて思ったものですから、そうするとこれ私はいいかげんなことを結構言いますけれども、直売というのは市場価格の2倍と売れないのです。絶対売れない。2倍なんてとても売れない。食べさせると、市場価格の3倍以下ですよ。原価率3割下回ってしまうとお客さん来ませんので。

これは加工事業が、私のところではピワを加工しているものですから、仕入れ価格の20倍で売っているのです。トータルですよ。人件費とかいろいろ入れるのです。そうした場合に、もし何らかの道の駅等のほうでなくて、何らかの売店をやろうとしたら、地域の特産物をそのまま売るよりも、料理にするのだったら加工して売ったほうがいいわけで、その場合の加工品の候補というのがあるのですか。

○齋藤敏美（委員）

正直特産と言われているものが、先ほどちょっと話がありましたけれども、吉田は歴史的に三つ葉の栽培がものすごく有名な地域ではあったのですけれども、現在何農家さんですか。3農家さん。もうそのレベルです。

○大谷芳末（委員）

よくある大根、キュウリ、トマト、ホウレンソウ、特筆できるものは現状ございません。

○福川裕一（委員長）

特別なものを出す必要はなくて、キュウリがおいしければいいのではないですか。それは可能性があるのではないですか。減った理由は何かあるのでしょうか。

○齋藤敏美（委員）

もう決定的に農家の後継者不足というのが決定的な原因ですけれども。

○福川裕一（委員長）

要するに売れば後継者は出てくるので。そこが問題ですよ。

○加藤文男（副委員長）

もう一点ですけれども、農家の人たち、結構高齢だと思えるのですけれども、TPPで恐らく海外からの農産物が入ってくることになると思うのです。

農産物の日本側の障壁は、恐らくGAPがあると思うのです。

GAPという、グッド・アグリカルチュアル・プラクティクスという、生産基準というのをクリアしなければいけないということになるわけですね。

そうすると、今のところ具体的な名前言えませんが、あの国の代物が心配だとか、あれが危険だとかというような日本の空気があるのですけれども、だんだん慣れてくると、いわゆる一つの品質基準をクリアしたものでかどうかという、流通の一つのルールになっていくような気がしていけないのです、将来。

今日本はどうかというと、顔が見えるから安心とか、私がつくったから安心とかいうのだけれども、あれは安全ではないです。

日本語でいう安心野菜というのは、あれは英語にできないのです。英語にすると、セーフティーベジタブルになるわけですから、安全野菜。では、安全の根拠は何と言われた場合に、日本だとなかなかその根拠が、俺が言っているのだから安心だとかいう心情的なものになってしまって、千葉県がちばエコという基準で出しているのですけれども、ちばエコよりもっと厳しいのがJGAPというのがある。グローバルGAPとJGAPとかいろいろあるようなのですけれども、そういうようなものを取り組んで、ここの農産物に特徴を出そうというようなことってできるのですか、吉田地域の農家、農業に取り組んでいる方たちというのは。

○大谷芳末（委員）

僕自身は、そこまでの農業関係の深い情報持っていないので、想像するに難しい。

○齋藤敏美（委員）

厳しいかな。

○渡邊忠明（委員）

そういった意味で、私冒頭お願いしたように、どのくらい農業に従事していて、どういう作目がどの程度あるのかというのは、やっぱりちょっとそこは調べていただきたいと思うのです。これは、お二人ではなくて、事務局に。

○福川裕一（委員長）

これは、吉田地区だけに限定してもしょうがないので、やはり印西とか、全体の話です。でも、それはきちんとおっしゃったけれども、そういうことが利益に結びつくとか、何かいろんな意味でいいというふうになれば、取り組むのではないですかと思いますけれども。

それで、あれでしょう、これもう吉田地区のコミュニティのすばらしさをお話になったことから、当たり前想像したのですけれども、こういう施設をつくれば、皆さんが経営していくのですよね。という覚悟のお話ですか。

○大谷芳末（委員）

今私が発表したのは、私がつくった仕組みではなくて、恐らく100年前から毎年続いていることなのです。今でもやっている。

○福川裕一（委員長）

ですから、今度何か例えばこういう施設ができたとしたら、それは吉田区で、吉田区株式会社がちゃんと運営していくというふうに思いながらお聞きしていいですか。

○大谷芳末（委員）

理想的には、振興策でイニシャルコストを行政が持っている、それ以降の運転は吉田が自前でできるのが理想的です。

○福川裕一（委員長）

そうですね。それが理想ですね。

○加藤文男（副委員長）

ちっちゃな、中くらいの修繕どうしましょうかね。

あと、余分なことなのですけれども、そこがちょっと心配なのと、それと私も元行政なのですけれども、行政って最初つくってしまうと、ぼんつくって、その後お客のニーズとか、お客の嗜好とか動向に合わせて変化させられないのです。

だから、そこをどうするかということかなという気がしていて、恐らく指定管理とか何かあると、小破修繕何万円以下。

○大谷芳末（委員）

そういう懸念事項も含めて、お知恵を拝借できれば。

どういう道を選ぶのが一番いいのかということですよ。

○加藤文男（副委員長）

会社が儲かるようにすればいいのですけれども、そうすると委員の中の意思統一ができないと思うのですけれども、恐らく売り上げをつくろうとすれば、施設が大きくなる。これは当たり前の話だと思うのです。バックヤードの仕事で行くかどうかは別として。会社も儲けようとする、条件の悪いパートさん雇わなければいけないので、その矛盾も解決していかなければいけないのですよ。

○渡邊忠明（委員）

ですから、運営はもちろん吉田区が中心になるのですが、小野委員からもあったように、場合によっては周辺地域も含めてサポートしてもらうこともあり得るべきかなと思っているのですけれども。

要するに吉田地区を核に、若手の働き手が足りなかったら、ほかの地区からも通ってきてもらう、あるいは住む人も出てくるかもしれないというようなことで、吉田地区だけ見ないで、小野委員が言うように、印西全体を眺めながら、あるいは2市1町を眺めながら考える部分もあっていいのかなと思います。

それと、加藤副委員長おっしゃったとおり、儲かる、儲けなければいけない、利益を上げなければいけないということで、やっぱりリーン・スタートアップということで、小さく産んで大きく育てると、そういう発想がやっぱり大事だなと思うのです。

○加藤文男（副委員長）

私の知っている事例というか、自分のところがそうだったのですが、会社がんがんもってきて、とにかく会社が突っ込んでやるやり方ですね。だから、その場合に、だから小さく産んで大きく育てるのはわかるのですけれども、今回焼却場の補償事業という形でやった場合に、それをどうやって事務局側、組合側が担保していくのかよくわからないのです。

○大谷芳末（委員）

一番わかんないところですよ。

○小野明（委員）

それはね、道の駅をつくるということ、一番そうかもしれませんけれども、スポーツ振興事業をやっていくのだと。さっきのサイクルロードもあるし、パラグライダーも同じですよ。そのスポーツ振興事業をやっていくのだということを表に出して、それでもって、そういう附帯設備として民でつくっていくという形というのは難しいのです。見せ方の問題です。国と県から金持ってきて。

○加藤文男（副委員長）

申しわけないと思っているのですけれども、結局吉田区さんが期待しているのは雇用と収益事業なのです、結果から見ると。そうですね。利益が出なくても、雇用が生まれればいいと。だから、市が何らかの形で雇用の部分を委託してくれればいいですよ。その350万円でしたっけ。それか、あと自分たちの工夫によって利益が出る部分、この2つで地域を盛り上げようとしているのでしょうか。あと、インフラとかそういうのが別です。そうしていった場合に、どうしても利益を上げる部分についての行政の支援というのは、なかなかテクニックが要りますね。

○小野明（委員）

運営を第三セクター、今は第三セクターというのは古いですね。だけれども、運営を民の企業でやるって、まさに吉田区株式会社に、それでいいのではないですか。

○加藤文男（副委員長）

すみません、やりとりしてしまっていていいですか。

○福川裕一（委員長）

どうぞ。

○加藤文男（副委員長）

その株式会社吉田ということにしていいですよ。株式会社吉田がもうかる仕組みが構築できれば構わないのです。ただ、それが今誰も民間企業がやっていない事業に手を出すわけではないですか、株式会社吉田が。そうすると、株式会社吉田の株主がそのリスクを背負えるかどうか。

○小野明（委員）

印西市出ませんか。

○加藤文男（副委員長）

だから、印西市では。

○小野明（委員）

市長にやってもらうとか。

○加藤文男（副委員長）

そういうことになると思うのですけれども、ただ話の分け方として、株式会社吉田が全てのリスクを負って、民間だから、あなた頑張って儲けなさいよということは、なかなかリスクーだと思います。恐らく区の会がまとまらないと思います。

○小野明（委員）

白井とか栄町とか、それから印西市も、余り財政的な負担というのも難しいでしょうから。

○加藤文男（副委員長）

何かその兼ね合いを。

○福川裕一（委員長）

その辺一つ問題ですけれども。

関連してですけれども、ハード、施設そのものは公的なものからうまく引っ張ってくるといのはすごくいいことなのですけれども、ソフト運営面の助成があったとしても、首長が変わればおっしゃることも、それが常と言って差し支えないと思うのです。国のソフトの予算だって3年から5年、それととにかく県、国からソフトの予算をもらうと、事務手続のためにすごい書類いっぱいつくって、131人の方々にとっては負担になるので、やっぱり運営は公には頼れないのではないかなと危惧していますね。

○小野明（委員）

印西市に進出している企業さんのお金もらって、運営助成してもらえればね。それで民で運営すればいいのです。

○福川裕一（委員長）

現実余り暗い話にしても、皆さんおっしゃるので。その辺は、せっかく財産を積んでいるし、ほかにも市町さんもついているし、コンサルタントの方もいらっしゃるし、ちょっとその辺はまたお任せします。それで、これを詰めるのはこの運営委員会の仕事ということです。

さて、大体時間も3時間に近くなってきましたけれども、大体問題点は出たのかなと。だから、これを改めて整理していただいて、次回引き続き議論するということだと思います。

あと、何かこれを検討していたほうがいいよというような話があったら。大体出尽くしましたか。いいですか、大谷委員。

○大谷芳末（委員）

はい。

- 福川裕一（委員長）
それでは、この課題はこれでおしまいにします。

次第8 その他

- 川砂智行（事務局）
次第8のその他ということよろしいでしょうか。
事務局から一点だけご確認です。
次回会議でございますが第3回会議につきまして、7月26日、日曜日、13時から
同じ場所で開催となります。
開催通知につきましては、後日送付いたしますので、宜しくお願いいたします。
以上でございます。

次第9 閉会

- 福川裕一（委員長）
はい、それでは閉会とします。